

(様式第10)

聖 医 大 管 第 435 号
令 和 6 年 10 月 1 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人 聖マリアンナ医科大学
理事長 明石 勝也

聖マリアンナ医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和5年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒216-8511 神奈川県川崎市宮前区菅生2丁目16番1号
氏名	学校法人 聖マリアンナ医科大学 理事長 明石 勝也

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

聖マリアンナ医科大学病院

3 所在の場所

〒216-8511 神奈川県川崎市宮前区菅生2丁目16番1号
電話(044)977-8111

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

○	1	医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
	2	医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科				有			
内科と組み合わせた診療科名等							
○	1呼吸器内科	○	2消化器内科	○	3循環器内科	○	4腎臓内科
	5神経内科	○	6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科			○	11リウマチ科
診療実績							

- 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 (注) 2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科						無	
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							

- 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

- (注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科						無	
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科		2矯正歯科		3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							
川崎市立多摩病院の歯科口腔外科と連携し、歯科の診療体制を整備している。							

- 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 (注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	代謝・内分泌内科	2	脳神経内科	3	腫瘍内科	4	神経精神科	5	乳腺・内分泌外科
6	形成外科	7	病理診断科	8	リハビリテーション科	9	疼痛緩和内科	10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
31	0	0	0	924	955

(単位:床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	719	237	729.3	看護補助者	82.8	診療エックス線技師	0
歯科医師	0	0	0	理学療法士	37	臨床検査技師	111.8
薬剤師	75	1	75.6	作業療法士	11.9	衛生検査技師	0
保健師	85	1	85.8	視能訓練士	8	その他	0
助産師	48		48	義肢装具士	0	あん摩マッサージ指圧師	0
看護師	1,098	48	1,126	臨床工学士	47.8	医療社会事業従事者	13
准看護師	0	0	0	栄養士	2	その他の技術員	49.8
歯科衛生士	0	0	0	歯科技工士	0	事務職員	255.8
管理栄養士	31	3	32.7	診療放射線技師	82.4	その他の職員	0

- 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
(注) 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	82	眼科専門医	13
外科専門医	50	耳鼻咽喉科専門医	9
精神科専門医	10	放射線科専門医	16
小児科専門医	28	脳神経外科専門医	7
皮膚科専門医	7	整形外科専門医	22
泌尿器科専門医	5	麻酔科専門医	24
産婦人科専門医	15	救急科専門医	20
		合計	284

- 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
(注) 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (大坪 毅人) 任命年月日 令和 2 年 4 月 1 日

業務経験 ・平成29年4月1日より医療安全対策委員長及び医療安全管理担当副院長に就任。 業務内容 ・毎月1回医療安全対策委員会へ出席し審議。 ・院内のインシデント・アクシデント報告を受け、案件により臨時医療安全対策委員会開催を指示。 ・医療安全管理室より案件報告を受け、毎月1回病院としての対応を協議。 ・毎月1回患者相談全記録の確認。 ・全国医学部長病院長会議等からの『医療安全情報』を確認し、当該部署へ情報提供。 ・日本私立医科大学協会の相互ラウンド(当院への訪問)に参加。 ・医療安全関連の教職員研修会に参加。 ・横浜地方裁判所の医療訴訟関係協議会へ出席。
--

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	818.6 人	0 人	818.6 人
1日当たり平均外来患者数	1,962 人	0 人	1,962 人
1日当たり平均調剤数	6,383		剤
必要医師数	201		人
必要歯科医師数	0		人
必要薬剤師数	80		人
必要(准)看護師数	476		人

- 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- (注) 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	(1床当たり、18.18㎡)	RC造	病床数	63 床	心電計	有
	1,145.67 ㎡		人工呼吸装置		心細動除去装置	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	248.69 ㎡	病床数	23 床	
	[移動式の場合]	台数	0 台			
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	97.26 ㎡			
	[共用室の場合]	共用する室名	薬剤部(薬剤管理指導室 DI室)			
化学検査室	360 ㎡		(主な設備)	フリーザー、浸透圧測定装置、分光光度計、生化学自動分析装置 純水装置、安全キャビネット、乾熱滅菌器、自動分注仕分装置		
細菌検査室	153 ㎡		(主な設備)	測定機器、フラン器、高圧滅菌器、遠心機、顕微鏡、冷蔵冷凍庫等		
病理検査室	354.48 ㎡		(主な設備)	システムバーコード印字機、自動包埋装置、自動染装置		
病理解剖室	49.12 ㎡		(主な設備)	解剖台、高圧滅菌装置、真空パック装置		
研究室	1,875 ㎡		(主な設備)	遠心分離機、超低温フリーザー、顕微鏡、高圧タンク、超純水装置		
講義室	1,547 ㎡		室数	5 室	収容定員	1,164 人
図書室	1,017 ㎡		室数	1 室	蔵書数	140,000 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率		103.7	%	逆紹介率		105.2	%
算出 根拠	A: 紹介患者の数			18,861		人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数			23,780		人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数			4,586		人	
	D: 初診の患者の数			22,593		人	

1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

(注) 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
上原 敏夫	一橋大学名誉教授、 山本柴崎法律事務所 弁護士	○	一橋大学教授、九州大学・北海道大学等多数の大学の講師及び司法研究所講師等の教職、日本民事訴訟法学会、日本私法学会及び仲裁ADR学会等の理事、法制審議会幹事・臨時委員、下級裁判所裁判官指名諮問委員会委員、最高裁判所民事規則諮問委員会委員及び司法試験考査委員等の法律立案・法曹養成等の公職、学校法人藤村学園副理事長を歴任し、さらに長年にわたってカンボディア王国及び中華人民共和国の法整備の支援に尽力され、日本を代表する民事訴訟法学者である。 また、平成21年には本院の医療事故調査委員会外部委員を務めたほか、医療事故を代表する判例の解説(「ルンバール事件」)民事訴訟法判例百選第4版)を著すなど、医療関係の法務についても深い見識を有している。人格識見は各界においても広く知られているところであり、外部委員としてふさわしい。	無	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者

相馬 孝博	千葉大学医学部附属病院 医療安全管理部 特任教授		心臓外科医の指導医として活躍、国立保健医療科学院政策科学部安全科学室長を務め、名古屋大学医学部附属病院医療の質・安全管理部准教授、東京医科大学医療安全管理学講座主任教授を経て現職。 インфекションコントロールドクター（ICD）、日本医療の質・安全学会理事、日本医療・病院管理学会評議員、日本呼吸器外科学会評議員、横浜市立大学病院外部評価委員会委員長を務める。感染制御および医療安全管理業務の経験を有する委員として見識を有している。人格、識見とも優れ、外部委員としてふさわしい。	無	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
岡田 綾	順天堂大学再編事業事務局 前順天堂医院看護部長		順天堂大学医学部附属練馬病院、順天堂医院で長年に渡り看護部長を務められ、自施設において医療安全対策に積極的に関わっていた。大学病院に求められる実践・教育・研究という役割的視点を持ち合わせており、また人格的にも優れている人物である。外部委員としてふさわしい。	無	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
福島 慎吾	認定NPO法人 難病のこども支援 全国ネットワーク会専務理事		脊髄性筋萎縮症という神経難病、てんかんのある子どもの父親。社会福祉士。入間市障害者福祉審議会会長、神奈川県慢性疾患児童支援協議会委員、千葉県移行期医療支援連絡協議会委員、社会保障審議会専門委員などを努められており、人格、識見とも優れ、外部委員としてふさわしい。	無	医療を受ける者その他の医療従事者以外の者
大橋 茂	内部監査室 室長		法人の内部監査室長として会計監査・業務監査に携わり、公平な立場で物事が判断でき、内部委員としてふさわしい。	有	その他

「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

- (注) 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
病院ホームページにて公表	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数 (人)
タイムラプス撮像法による受精卵・胚培養	83人
子宮内細菌叢検査1	6人
子宮内膜受容能検査1	1人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
先進医療の種類の合計数	3
取り扱い患者数の合計(人)	90人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
ネシツムマブ静脈内投与療法	3人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
先進医療の種類の合計数	1
扱い患者数の合計(人)	3人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	
取扱い患者数の合計(人)	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	6	56	原発性免疫不全症候群	31
2	筋萎縮性側索硬化症	16	57	IgA 腎症	44
3	脊髄性筋萎縮症	7	58	多発性嚢胞腎	43
4	原発性側索硬化症	2	59	黄色靱帯骨化症	13
5	進行性核上性麻痺	18	60	後縦靱帯骨化症	16
6	パーキンソン病	297	61	広範脊柱管狭窄症	2
7	大脳皮質基底核変性症	15	62	特発性大腿骨頭壊死症	80
8	ハンチントン病	3	63	下垂体性ADH分泌異常症	24
9	シャルコー・マリー・トウス病	14	64	下垂体性PRL分泌亢進症	33
10	重症筋無力症	120	65	クッシング病	13
11	多発性硬化症／視神経脊髄炎	122	66	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	68
12	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	19	67	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	12
13	封入体筋炎	6	68	下垂体前葉機能低下症	91
14	クローウ・深瀬症候群	1	69	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1
15	多系統萎縮症	15	70	先天性副腎皮質酵素欠損症	5
16	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	52	71	アジソン病	11
17	ライソゾーム病	10	72	サルコイドーシス	52
18	副腎白質ジストロフィー	3	73	特発性間質性肺炎	32
19	ミトコンドリア病	35	74	肺動脈性肺高血圧症	12
20	もやもや病	13	75	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	24
21	プリオン病	3	76	リンパ脈管筋腫症	1
22	HTLV-1関連脊髄症	58	77	網膜色素変性症	20
23	全身性アミロイドーシス	6	78	特発性門脈圧亢進症	6
24	遠位型ミオパチー	1	79	原発性胆汁性胆管炎	31
25	神経線維腫症	33	80	原発性硬化性胆管炎	4
26	天疱瘡	32	81	自己免疫性肝炎	19
27	表皮水疱症	9	82	クローン病	129
28	膿疱性乾癬(汎発型)	13	83	潰瘍性大腸炎	259
29	スティーヴンス・ジョンソン症候群	5	84	好酸球性消化管疾患	54
30	中毒性表皮壊死症	1	85	慢性特発性偽性腸閉塞症	1
31	高安動脈炎	30	86	ルビンシュタイン・ティビ症候群	2
32	巨細胞性動脈炎	37	87	CFC症候群	1
33	結節性多発動脈炎	32	88	コステロ症候群	1
34	顕微鏡的多発血管炎	79	89	チャージ症候群	3
35	多発血管炎性肉芽腫症	37	90	クリオピリン関連周期熱症候群	2
36	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	47	91	若年性特発性関節炎	35
37	悪性関節リウマチ	48	92	筋ジストロフィー	31
38	パージャール病	44	93	遺伝性周期性四肢麻痺	6
39	原発性抗リン脂質抗体症候群	7	94	アトピー性脊髄炎	1
40	全身性エリテマトーデス	418	95	脊髄空洞症	15
41	皮膚筋炎／多発性筋炎	190	96	脊髄髄膜瘤	5
42	全身性強皮症	126	97	アイザックス症候群	6
43	混合性結合組織病	59	98	遺伝性ジストニア	3
44	シェーグレン症候群	49	99	脳表ヘモジデリン沈着症	3
45	成人スチル病	34	100	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	1
46	再発性多発軟骨炎	66	101	前頭側頭葉変性症	16
47	ベーチェット病	82	102	ビッカースタッフ脳幹脳炎	2
48	特発性拡張型心筋症	25	103	痙攣重積型(二相性)急性脳症	7
49	肥大型心筋症	15	104	先天性無痛無汗症	2
50	拘束型心筋症	1	105	アレキサンダー病	1
51	再生不良性貧血	12	106	片側巨脳症	1
52	自己免疫性溶血性貧血	21	107	神経細胞移動異常症	5
53	発作性夜間ヘモグロビン尿症	8	108	先天性大脳白質形成不全症	22
54	特発性血小板減少性紫斑病	34	109	ドラベ症候群	7
55	血栓性血小板減少性紫斑病	8	110	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	2

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
111	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	1	166	ポルフィリン症	2
112	レノックス・ガストー症候群	8	167	肝型糖原病	1
113	ウエスト症候群	15	168	家族性地中海熱	30
114	大田原症候群	1	169	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	3
115	早期ミオクロニー脳症	1	170	慢性再発性多発性骨髄炎	1
116	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	1	171	強直性脊椎炎	29
117	ラスムッセン脳炎	2	172	骨形成不全症	2
118	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	2	173	タナトフォリック骨異形成症	2
119	レット症候群	2	174	軟骨無形成症	6
120	スタージ・ウェーバー症候群	4	175	リンパ管腫症/ゴーハム病	1
121	結節性硬化症	12	176	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	2
122	先天性魚鱗癬	2	177	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	11
123	家族性良性慢性天疱瘡	1	178	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	21
124	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	12	179	後天性赤芽球癆	3
125	マルファン症候群	11	180	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	2
126	エーラス・ダンロス症候群	4	181	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	3
127	ウィルソン病	7	182	クロンカイト・カナダ症候群	2
128	低ホスファターゼ症	2	183	総排泄腔遺残	3
129	ジュベール症候群関連疾患	1	184	先天性横隔膜ヘルニア	9
130	ウィリアムズ症候群	2	185	胆道閉鎖症	16
131	多脾症候群	2	186	嚢胞性線維症	2
132	無脾症候群	3	187	IgG4関連疾患	21
133	鰓耳腎症候群	2	188	黄斑ジストロフィー	2
134	ブラダー・ウィリ症候群	6	189	レーベル遺伝性視神経症	1
135	ソトス症候群	4	190	若年発症型両側性感音難聴	2
136	ヌーナン症候群	5	191	遅発性内リンパ水腫	10
137	4p欠失症候群	2	192	好酸球性副鼻腔炎	42
138	5p欠失症候群	3	193	進行性ミオクローヌステんかん	1
139	アンジェルマン症候群	8	194	先天異常症候群	3
140	22q11.2欠失症候群	8	195	カルニチン回路異常症	1
141	総動脈幹遺残症	1	196	シトリン欠損症	2
142	単心室症	4	197	遺伝性自己炎症疾患	1
143	左心低形成症候群	3	198	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	34
144	三尖弁閉鎖症	10	199	前眼部形成異常	3
145	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	7	200	無虹彩症	3
146	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	4	201	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症	15
147	ファロー四徴症	47	202	特発性多中心性キャッスルマン病	3
148	両大血管右室起始症	19	203	ネフロン癆	1
149	エプスタイン病	9	204	ホモシスチン尿症	3
150	アルポート症候群	10			
151	急速進行性糸球体腎炎	33			
152	抗糸球体基底膜腎炎	3			
153	一次性ネフローゼ症候群	43			
154	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	2			
155	紫斑病性腎炎	9			
156	間質性膀胱炎(ハンナ型)	3			
157	オスラー病	11			
158	閉塞性細気管支炎	1			
159	肺胞低換気症候群	2			
160	副甲状腺機能低下症	14			
161	偽性副甲状腺機能低下症	8			
162	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	1			
163	フェニルケトン尿症	2			
164	プロピオン酸血症	1			
165	尿素サイクル異常症	4			

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	204
合計患者数(人)	4,439

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

[illegible]

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

[illegible]

施設基準届出状況

< 基本診療料 >

- 情報通信機器を用いた診療
- 特定機能病院入院基本料（一般7対1）
- 特定機能病院入院基本料（精神7対1）
- 救急医療管理加算
- 超急性期脳卒中加算
- 診療録管理体制加算 2
- 医師事務作業補助体制加算1（20対1）
- 急性期看護補助体制加算1（25対1）看護補助者5割以上
注2/ハ 夜間100対1急性期看護補助体制加算・注3 夜間看護体制加算・注4 看護補助体制充実加算1
- 看護職員夜間配置加算1（12対1）
- 療養環境加算
- 重症者等療養環境特別加算
- 無菌治療室管理加算 1
- 無菌治療室管理加算 2
- 緩和ケア診療加算
- 精神科心身急入院施設管理加算
- 精神科身体合併症管理加算
- 精神科リエゾンチーム加算
- 摂食障害入院医療管理加算
- 医療安全対策加算 1
- 感染対策向上加算1
- 患者サポート体制充実加算
- 重症患者初期支援充実加算
- 褥瘡ハイリスク患者ケア加算

< 特掲診療料 >

- 外来栄養食事指導料（注2）
- 遠隔モニタリング加算（ペースメーカー指導管理料）
- 糖尿病合併症管理料
- がん性疼痛緩和指導管理料
- がん患者指導管理料 イ
- がん患者指導管理料 ロ
- がん患者指導管理料 ハ
- がん患者指導管理料 ニ
- 外来緩和ケア管理料
- 移植後患者指導管理料（臓器移植後の場合）
- 移植後患者指導管理料（造血幹細胞移植後の場合）
- 糖尿病透析予防指導管理料
- 小児運動器疾患指導管理料
- 乳腺炎重症化予防ケア・指導料
- 婦人科特定疾患治療管理料
- 腎代替療法指導管理料
- 一般不妊治療管理料
- 生殖補助医療管理料1
- 二次性骨折予防継続管理料1
- 慢性腎臓病透析予防指導管理料
- 院内トリアージ実施料
- 外来放射線照射診療料
- 外来腫瘍化学療法診療料1
- 外来腫瘍化学療法診療料 注9 がん薬物療法体制充実加算
- 連携充実加算
- ニコチン依存症管理料
- 療養・就労両立支援指導料
- がん治療連携計画策定料
- ハイリスク妊産婦連携指導料1
- 肝炎インターフェロン治療計画料
- 薬剤管理指導料
- 医療機器安全管理料 1
- 医療機器安全管理料 2
- 精神科退院時共同指導料1・2
- 重症患者搬送加算
- 救急患者連携搬送料
- 在宅血液透析指導管理料
- 在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
- 持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定)
- 持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
- 遺伝学的検査 注1及び注2
- 骨髄微小残存病変量測定
- BRCA1/2遺伝子検査
- がんゲノムプロファイリング検査
- 先天性代謝異常常症検査
- 抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体
- 抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
- HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
- ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(SARS-CoV-2核酸検出を含まないもの)
- ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(髄液)
- 検体検査管理加算(Ⅰ)
- 検体検査管理加算(Ⅳ)
- 国際標準検査管理加算
- 遺伝カウンセリング加算
- 遺伝性腫瘍カウンセリング加算
- 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
- 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
- 胎児心エコー法
- ヘッドアップティルト試験
- 長期継続頭蓋内脳波検査
- 長期脳波ビデオ同時記録検査1
- 単線維筋電図
- 脳波検査判断料1
- 神経学的検査
- 補聴器適合検査
- ロービジョン検査判断料
- コンタクトレンズ検査料 1
- 小児食物アレルギー負荷検査
- 内服・点滴誘発試験
- 経頸静脈の肝生検
- 前立腺針生検法(MRI 撮影及び超音波検査融合画像によるもの)
- 経気管支凍結生検法
- 画像診断管理加算 1
- 画像診断管理加算 4
- ボジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く)
- ボジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る)
- CT撮影及びMRI撮影
- 冠動脈CT撮影加算
- 血流予備量比コンピューター断層撮影
- 外傷全身CT加算
- 心臓MRIⅠ撮影加算
- 乳房MRIⅠ撮影加算
- 頭部MRIⅠ撮影加算
- 抗悪性腫瘍剤処方管理加算
- 外来化学療法加算 1
- 無菌製剤処理料
- 心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
- 脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
- 運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
- 呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
- がん患者リハビリテーション料
- 経頭蓋磁気刺激療法
- 児童思春期精神科専門管理加算(通院・在宅精神療法)
- 療養生活環境整備指導加算(通院・在宅精神療法)
- 療養生活継続支援加算(通院・在宅精神療法)
- 認知療法・認知行動療法1
- 抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
- 医療保護入院等診療料
- 静脈圧処置(慢性静脈不全に対するもの)
- 多血小板血漿処置
- 人工腎臓(慢性維持透析を行った場合1)
- 導入期加算1、2、3及び腎代替療法実績加算
- 透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
- 難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法
- 歩行運動処置(ロボットスーツによるもの)
- 移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法
- ストーマ合併症加算

- ハイリスク妊娠管理加算
- ハイリスク分娩管理加算
- 呼吸ケアチーム加算
- 術後疼痛管理チーム加算
- 後発医薬品使用体制加算 1
- 病棟薬剤業務実施加算 1
- 病棟薬剤業務実施加算 2
- データ提出加算 2及び4
- 入退院支援加算 1・3(地域連携診療計画加算/入院時支援加算/総合機能評価加算)
- 精神科入院退院支援加算
- 医療的ケア児(者)入院前支援加算
- 認知症ケア加算1
- せん妄ハイリスク患者ケア加算
- 精神疾患診療体制加算
- 精神科急性期医師配置加算 2のイ
- 地域医療体制確保加算
- 救命救急入院料 1
- 特定集中治療室管理料 2
- ハイケアユニット入院医療管理料1
- 脳卒中ケアユニット入院医療管理料
- 新生児特定集中治療室重症児対応体制強化管理料
- 総合周産期特定集中治療室管理料(母体・胎児)
- 総合周産期特定集中治療室管理料(新生児)
- 新生児治療回復室入院医療管理料
- 小児入院医療管理料 1

- 皮膚悪性腫瘍切除術(皮膚悪性腫瘍センチネルリンパ節生検加算を算定する場合に限る。)
- 組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)
- 骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る。)))
- 骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
- 椎間板内酵素注入療法
- 緊急穿頭血腫除去術
- 脳腫瘍覚醒下マッピング加算
- 内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術
- 脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術
- 背髄刺激装置植込術及び背髄刺激装置交換術
- 頭蓋内電極植込術(脳深部電極によるもの(7本以上の電極による場合)に限る)
- 角結膜悪性腫瘍切除術
- 緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
- 緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
- 緑内障手術(濾過路再建術(needle法))
- 網膜再建術
- 経外耳道的内視鏡下鼓室形成術
- 植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
- 耳管用補綴材挿入術
- 内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うものに限る。)
- 頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
- 鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
- 鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
- 乳癌センチネルリンパ節生検加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
- 乳癌センチネルリンパ節生検加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
- 乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
- ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
- 乳腺悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法
- 気管支バルブ留置術
- 肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)
- 胸腔鏡下肺悪性腫瘍腫手術(気管支形成を伴う肺切除)
- 肺悪性腫瘍及び胸腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法
- 食道縫合術(穿孔、損傷)内視鏡によるもの、内視鏡下胃、十二指腸穿孔孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腸腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
- 経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
- 胸腔鏡下弁形成術
- 胸腔鏡下弁置換術
- 経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮の大動脈弁置換術)
- 経皮的僧帽弁クリップ術
- 不整脈手術(左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの))
- 不整脈手術(左心耳閉鎖術(経カテーテルの手術によるもの))
- 経皮的中隔心筋焼灼術
- ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
- ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
- 両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
- 植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術
- 両室ベーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ベーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
- 大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
- 経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
- 補助人工心臓
- 経皮の下肢動脈形成術
- 腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
- 腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)
- 腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍手術、腹腔鏡下小切開副腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開尿管腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術、腹腔鏡下小切開膀胱腫瘍摘出術及び腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
- 骨盤内悪性腫瘍及び腹腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法
- 内視鏡的逆流防止粘膜切除術
- 腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
- バルーン閉塞下逆行性経静脈の塞栓術
- 腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
- 胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
- 腹腔鏡下肝切除術
- 腹腔鏡下脾腫瘍摘出術
- 腹腔鏡下脾体尾部腫瘍切除術
- 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
- 内視鏡的小腸ポリープ切除術
- 腎悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法
- 同種死体腎移植術
- 生体腎移植術
- 膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)、埋没陰茎手術及び陰囊水腫手術(鼠径部切開によるもの)
- 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
- 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
- 胎児胸腔・羊水腔シャント術
- 胎児輸血術(一連につき)及び臍帯穿孔
- 体外式膜型人工肺管理料
- 胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)
- 医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術
- 再製造単回使用医療機器使用加算

- 輸血管理料Ⅰ
- 輸血適正使用加算
- 自己クリオプレシビート作製術(用手法)
- 同種クリオプレシビート作製術
- 人工肛門・人工膀胱増設術前処置加算
- 胃瘻造設時嚥下機能評価加算
- 麻酔管理料(Ⅰ)
- 麻酔管理料(Ⅱ)
- 周術期薬剤管理加算
- 放射線治療専任加算
- 外来放射線治療加算
- 高エネルギー放射線治療
- 一回線量増加加算
- 強度変調放射線治療(IMRT)
- 画像誘導放射線治療加算(IGRT)
- 体外照射呼吸性移動対策加算
- 定位放射線治療
- 定位放射線治療呼吸性移動対策加算
- 画像誘導密封小線源治療加算
- 病理診断管理加算 2
- 悪性腫瘍病理組織標本加算
- 看護職員処遇改善評価料73
- 外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)
- 入院ベースアップ評価料82

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	3回／週	
剖 検 の 状 況	剖検症例数（例）	33
	剖検率（％）	5.8

(注) 1 「臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況」欄については、選択肢の1・2どちらかを選択する(○で囲む等)こと。
(注) 2 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
1	国民、医師を対象とした総合診療専門医に関するニーズ調査	大平 善之	総合診療内科	2,700,000	補委	(独)日本学術振興会
2	心臓MRIによる拡張型心筋症の経時的線維化進展に関する研究	中島 育太郎	循環器内科	500,000	補委	(独)日本学術振興会
3	血管内視鏡による経皮的卵円孔閉鎖術後の閉鎖栓内膜被覆度評価と被覆遅延因子の同定	田邊 康宏	循環器内科	1,500,000	補委	(独)日本学術振興会
4	腫瘍循環器リハビリテーションのQOLに着目した効果の検証	木田 圭亮	循環器内科	600,000	補委	(独)日本学術振興会
5	COVID-19流行下でのスポーツイベント開催は大会関係者の感染率に影響するか	足利 光平	循環器内科	300,000	補委	(独)日本学術振興会
6	二次性三尖弁閉鎖不全症における負荷心エコー検査の有用性	桑田 真吾	循環器内科	800,000	補委	(独)日本学術振興会
7	視線追跡装置を用いた消化器内視鏡治療技術の可視化によるトレーニングシステム開発	前畑 忠輝	消化器内科	1,000,000	補委	(独)日本学術振興会
8	クロマチン立体構造からの細胞系譜解析を用いた膵癌新規分子標的の同定と検証	立石 敬介	消化器内科	4,500,000	補委	(独)日本学術振興会
9	ウイルスゲノム組み込みと生体機能情報のリアルタイム血中可視化による子宮頸癌の制御	伊東 文生	消化器内科	800,000	補委	(独)日本学術振興会
10	膵・胆道系を標的とする革新的新規腫瘍マーカー・ラミニン γ 2とその機能解析	安田 宏	消化器内科	1,400,000	補委	(独)日本学術振興会
11	人工知能・新型ゲノムデータ駆動型アプローチに基づく革新的胃癌統合医療の創成	山本 博幸	消化器内科	3,200,000	補委	(独)日本学術振興会
12	三次元クロマチン構造に基づく胆道癌の分子学的層別化と治療戦略への展開	中原 一有	消化器内科	1,300,000	補委	(独)日本学術振興会
13	炎症性腸疾患の新規バイオマーカー・病態関連候補血清ペプチドの網羅的解析	加藤 正樹	消化器内科	1,400,000	補委	(独)日本学術振興会
14	腎代替療法選択におけるSDMの質評価法の確立とその決定因子の臨床疫学的検討	柴垣 有吾	腎臓・高血圧内科	1,300,000	補委	(独)日本学術振興会
15	習慣的有酸素運動による加齢腎の進行予防メカニズムの解明-筋腎連関の可能性	池森 敦子	腎臓・高血圧内科	1,200,000	補委	(独)日本学術振興会
16	慢性腎臓病患者のヘルスリテラシーと患者予後の改善に向けたコホート研究	櫻田 勉	腎臓・高血圧内科	200,000	補委	(独)日本学術振興会

17	かかりつけ医から腎臓専門医に紹介すべき尿定性検査解釈の検討ー尿比重の有用性	久道 三佳子	腎臓・高血圧内科	100,000	補委	(独)日本学術振興会
18	疾患iPS細胞を用いた骨格筋代謝におけるミトコンドリア機能の意義の解明	曾根 正勝	代謝・内分泌内科	600,000	補委	(独)日本学術振興会
19	異種動物体内での機能的な副甲状腺再生	加納 麻弓子	代謝・内分泌内科	200,000	補委	(独)日本学術振興会
20	HAMのシングルセル遺伝子発現解析による疾患特異的な免疫異常発現機構の解明	山野 嘉久	脳神経内科	4,300,000	補委	(独)日本学術振興会
21	パーキンソン病の垂直姿勢保持困難への主観的垂直位測定による評価手法の確立	白石 真	脳神経内科	500,000	補委	(独)日本学術振興会
22	DUX4パラログの機能解明と顔面肩甲上腕型筋ジストロフィーの治療法開発	三橋 里美	脳神経内科	1,300,000	補委	(独)日本学術振興会
23	HAMの免疫異常におけるヒストンメチル化酵素EZH2の役割の解明	佐藤 知雄	脳神経内科	1,300,000	補委	(独)日本学術振興会
24	ウェアラブル端末を用いた多発性硬化症患者のQoL評価方法の開発	櫻井 謙三	脳神経内科	800,000	補委	(独)日本学術振興会
25	サイトカインプロファイリングに注目したCAEBVの病態解明と治療法の開発	上村 悠	血液内科	1,200,000	補委	(独)日本学術振興会
26	Layilinを中心とした関節リウマチの滑膜増殖機構の解明	加藤 智啓	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	1,000,000	補委	(独)日本学術振興会
27	膠原病合併間質性肺炎の免疫病態を反映する上皮アポトーシス由来バイオマーカーの確立	川畑 仁人	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	1,200,000	補委	(独)日本学術振興会
28	CNSループス病態における免疫細胞の遊走制御機構の解明	宮部 斉重	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
29	生理的・病的荷重ストレスに応答する軟骨のエネルギー代謝と核酸修復の相関、治療応用	遊道 和雄	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	1,400,000	補委	(独)日本学術振興会
30	うつ病に対するインターネット支援型認知行動療法の効果検証と普及法の確立	中川 敦夫	神経精神科	2,200,000	補委	(独)日本学術振興会
31	知的・発達障がい児を対象とした性的問題行動のセルフレギュレーションモデルの創出	安藤 久美子	神経精神科	700,000	補委	(独)日本学術振興会
32	新生児診療支援システムを用いた診療・特定認定看護師の臨床推論力の向上に関する研究	北東 功	小児科・新生児科	600,000	補委	(独)日本学術振興会
33	フォンタン術後の遠隔期合併症発症予防にEMSを用いたリハビリテーションは有効か？	麻生 健太郎	小児科・新生児科	1,000,000	補委	(独)日本学術振興会
34	横隔膜呼吸筋の電気活動を中心とした多角的評価方法の確立	川口 敦	小児科・新生児科	1,900,000	補委	(独)日本学術振興会

35	膜型人工肺における血栓評価と薬剤治療の役割	加藤 匡人	小児科・新生児科	600,000	補委	(独) 日本学術振興会
36	心臓血管外科手術データベースの国際比較と手術リスクモデルの構築	縄田 寛	心臓血管外科	400,000	補委	(独) 日本学術振興会
37	自己細胞を用いた気管の再生	小島 宏司	呼吸器外科	1,000,000	補委	(独) 日本学術振興会
38	帯電性ナノバブルによる胸膜播種抑制効果の研究	本間 崇浩	呼吸器外科	1,300,000	補委	(独) 日本学術振興会
39	臍帯間葉系幹細胞を用いた先天性横隔膜ヘルニアの低形成肺に対する新規治療の開発	新開 統子	小児外科	700,000	補委	(独) 日本学術振興会
40	脳・脊髄損傷に対する新規治療: 造血サイトカイン髄腔内投与療法の有効性の検討	村田 英俊	脳神経外科	600,000	補委	(独) 日本学術振興会
41	橈骨動脈アプローチによる脳カテーテル手技の安全性評価とトレーニングシステムの確立	伊藤 英道	脳神経外科	1,300,000	補委	(独) 日本学術振興会
42	ヒト骨格筋損傷に対する微弱電流の修復促進効果	藤谷 博人	整形外科	600,000	補委	(独) 日本学術振興会
43	脊柱変形における椎間板変性・Modic変性が起こるメカニズムの解明	赤澤 努	整形外科	900,000	補委	(独) 日本学術振興会
44	生理的・病的荷重ストレスに応答する軟骨核酸修復・エネルギー代謝の解析と、治療応用	寺内 昂	整形外科	900,000	補委	(独) 日本学術振興会
45	動力源として人工筋肉を装備する生体適合性人工骨・軟骨一体型バイオマテリアルの創製	熊井 隆智	整形外科	900,000	補委	(独) 日本学術振興会
46	砂浜での競技環境が足部機能に与える影響	市川 翔太	整形外科	1,100,000	補委	(独) 日本学術振興会
47	骨芽細胞におけるエネルギー代謝調節因子を介する力学的ストレス応答と、骨形成の制御	染村 嵩	整形外科	1,400,000	補委	(独) 日本学術振興会
48	外反母趾の病態と新たな治療法確立のための第1TMT関節の解剖学的研究	軽辺 朋子	整形外科	300,000	補委	(独) 日本学術振興会
49	自家培養表皮移植による乳房再建時の乳頭乳輪の色調調節	梶川 明義	形成外科	200,000	補委	(独) 日本学術振興会
50	各種MEK阻害薬の抗PD-1抗体併用時における悪性黒色腫腫瘍免疫への効果	門野 岳史	皮膚科	1,000,000	補委	(独) 日本学術振興会
51	皮膚リンパ腫の包括的病態解析と新規治療戦略の開拓	宮垣 朝光	皮膚科	1,200,000	補委	(独) 日本学術振興会
52	尿中CD55/CD9共陽性エクソソームを標的とした膀胱癌の新規診断・治療法の確立	菊地 栄次	腎泌尿器外科	1,200,000	補委	(独) 日本学術振興会

53	尿路感染症に特異的なエクソソームを検出する高感度迅速検査法による鑑別診断の試み	中澤 龍斗	腎泌尿器外科	1,200,000	補委	(独) 日本学術振興会
54	形質細胞様樹状細胞に着目した腎自発免疫寛容の解明ーヒト腎免疫寛容誘導への治療戦略	篠田 和伸	腎泌尿器外科	1,200,000	補委	(独) 日本学術振興会
55	Nitazoxanideを中心とした多剤併用による膀胱癌の新たな治療戦略の確立	早川 望	腎泌尿器外科	1,200,000	補委	(独) 日本学術振興会
56	運動習慣獲得による腎移植患者のQOL向上を目的とした運動促進プログラムの構築	丸井 祐二	腎泌尿器外科	900,000	補委	(独) 日本学術振興会
57	新規技術や臨床応用されていないがん・生殖医療領域の技術革新を志向した技術開発研究	鈴木 直	産婦人科	5,700,000	補委	(独) 日本学術振興会
58	子宮頸管粘液を用いたレクチン、糖鎖による子宮体がんの新規診断検査法の開発	戸澤 晃子	産婦人科	500,000	補委	(独) 日本学術振興会
59	子宮内膜を標的移植部位とした非侵襲的卵巣組織異所性移植法の開発	高江 正道	産婦人科	1,000,000	補委	(独) 日本学術振興会
60	子宮内の臍帯異常に起因する脳性麻痺の発症予知と予防に関する研究	長谷川 潤一	産婦人科	1,400,000	補委	(独) 日本学術振興会
61	卵巣組織凍結Vitrification法における新規凍結融解方法の確立	杉下 陽堂	産婦人科	400,000	補委	(独) 日本学術振興会
62	産科危機的出血における微細超音波血流ドプラを用いた病態診断と病態別止血法の開発	西村 陽子	産婦人科	900,000	補委	(独) 日本学術振興会
63	新規抗がん薬による卵巣毒性の機序解明と卵巣保護に関する研究	中村 健太郎	産婦人科	1,500,000	補委	(独) 日本学術振興会
64	妊娠初期におけるSMI(微細超音波ドプラ)を用いた胎盤疾患診断法の確立	古谷 菜摘	産婦人科	500,000	補委	(独) 日本学術振興会
65	未受精卵子体外培養及び未受精卵子凍結における卵子ミトコンドリア動態を解明する	鈴木 由妃	産婦人科	1,500,000	補委	(独) 日本学術振興会
66	視神経障害における軸索再生を妨げない軸索保護経路の解明	北岡 康史	眼科	1,200,000	補委	(独) 日本学術振興会
67	PPAR α アゴニストによる神経保護効果と分子制御機構の解明	藤田 直輝	眼科	1,100,000	補委	(独) 日本学術振興会
68	p62を中心とした視神経軸索障害におけるオートファジーと抗酸化経路の相互機構解明	佐瀬 佳奈	眼科	700,000	補委	(独) 日本学術振興会
69	鼻閉が及ぼす持続的運動と間欠的運動への影響と治療適応の解析	齋藤 善光	耳鼻咽喉・頭頸部外科	300,000	補委	(独) 日本学術振興会
70	疑似回転・疑似直線視覚刺激を用いた前庭動眼反射の可塑性におけるモデルティーの検証	肥塚 泉	耳鼻咽喉・頭頸部外科	100,000	補委	(独) 日本学術振興会

71	メニエール病と腸内細菌叢のディスバイオシスの関連性	笹野 恭之	耳鼻咽喉・頭頸部外科	400,000	補委	(独) 日本学術振興会
72	眼底写真・OCT検査両者を活用した人工知能による全身疾患の早期発見ツールの開発	小林 泰之	放射線診断・IVR科	1,700,000	補委	(独) 日本学術振興会
73	小細胞肺癌における代謝の変化と画像診断、放射線治療との関係	岡田 幸法	放射線治療科	300,000	補委	(独) 日本学術振興会
74	動作分析ソフトを用いた臨床現場での気管挿管操作時の動作解析	浜辺 宏介	麻酔科	100,000	補委	(独) 日本学術振興会
75	Track and Triggerによる自動的RRS起動システム開発・多施設検証	吉田 徹	救急科	800,000	補委	(独) 日本学術振興会
76	一酸化炭素(CO)中毒の光照射治療法—シミュレーションモデルによる実験方法—	平 泰彦	救急科	800,000	補委	(独) 日本学術振興会
77	COVID-19感染症後の筋痛性脳脊髄炎/慢性疲労症候群に対するrTMSの有効性	佐々木 信幸	リハビリテーション科	1,000,000	補委	(独) 日本学術振興会
78	HAMならびに類縁疾患の患者レジストリによる診療連携体制および相談機能の強化と診療ガイドラインの改訂	山野 嘉久	脳神経内科	12,308,000	補委	厚生労働省
79	「HTLV-1 総合対策」推進におけるキャリア対策の基盤整備と適正な研究開発の推進に資する包括的評価と提言のための研究	渡邊 俊樹	脳神経内科	3,850,000	補委	厚生労働省
80	International Classification of Health Interventions (ICHI) の我が国における活用・普及のための研究	川瀬 弘一	小児外科	2,300,000	補委	厚生労働省
81	小児・AYA世代がん患者に対するがん・生殖医療における心理社会的支援体制の構築と安全な長期検体保管体制の構築を目指した研究—サバイバーシップ向上を志向して	鈴木 直	産婦人科学	15,380,000	補委	厚生労働省
82	小児・AYA世代のがん患者等に対する妊孕性温存療法のエビデンス確立を目指した研究—安全性(がん側のアウトカム)と有効性(生殖側のアウトカム)の確立を目指して	鈴木 直	産婦人科学	2,300,000	補委	厚生労働省
83	てんかん診療拠点病院等における心因性非てんかん性発作等の実態把握	太組 一郎	脳神経外科	5,949,120	補委	厚生労働省
84	HAM・HTLV-1陽性難治性疾患の患者レジストリ活用によるエビデンス創出	山野 嘉久	脳神経内科学	5,550,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
85	新規核酸医薬を用いた難治性血液疾患の病態解明	新井 文子	血液内科	4,000,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
86	診療ガイドライン掲載のためのエビデンス創出を目指した慢性活動性EBウイルス感染症とその類縁疾患のレジストリ強化・病態解析・治療法の開発	新井 文子	血液内科	3,250,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
87	関節リウマチ(RA)大規模データベースを用いた、移行期・AYA世代および妊娠期RA患者における疾患特性の異同を内包するライフステージの課題抽出とその解決に資する研究	森 雅亮	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	2,800,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

88	適応障害(適応反応症)に対する新規心理社会的治療法の確立:反芻焦点化認知行動療法の研究プロトコール開発	中川 敦夫	神経精神科	2,000,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
89	電波式胸郭運動センサの研究開発	川口 敦	小児科・新生児科	5,450,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
90	シーズA22-09 AI技術を活用した自動気管挿管装置の開発研究	升森 泰	麻酔科	1,836,364	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

計90件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前
年
度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元
を
記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Tsuchida T, Yoshimura N, Ishizuka K 他	総合診療内科	Five cluster classifications of long COVID and their background factors: A cross-sectional study in Japan	Clinical and experimental medicine 23巻号 P3663-3670 2023年4月	Original Article
2	Tsuchida T, Ishizuka K, Ohira Y 他	総合診療内科	Xiphodynia Caused by a Large Xiphoid Process	Cureus . 15巻9号 Pe44516 2023年9月	Case report
3	Tsuchida T, Ishizuka K, Ohira Y	総合診療内科	Intestinal Obstruction Caused by Japanese Pickled Plum.	Journal of General Internal Medicine 38巻5号 P1303 2023年4月	Case report
4	Katayama K, Nishizaki Y, Takada T 他	総合診療内科	Association between mentorship and mental health among junior residents: A nationwide cross-sectional study in Japan.	Journal of General and Family Medicine 25巻1号 P62-67 2023年12月	Original Article
5	Tsuchida T, Ishibashi Y, Inoue Y 他	総合診療内科	Treatment of long COVID complicated by postural orthostatic tachycardia syndrome-Case series research.	Journal of General and Family Medicine 25巻1号 P53-61 2023年12月	Original Article
6	Tsuchida T, Sasaki N, Ohira Y 他	総合診療内科	Low brain blood flow finding on SPECT in long COVID patients with brain fog	QJM 116巻10号 P877-878 2023年10月	Case report
7	Takano Tomonori, Kaburagi Mayumi, Morikubo Satoru 他	総合診療内科	Ceftriaxone-related encephalopathy in a patient with end-stage renal disease and high ceftriaxone concentrations in cerebrospinal fluid and plasma: a case report.	Cureus 15巻10号 Pe46401 2023年10月	Case report
8	Morikawa Kei, Kinoshita Kohei, Matsuzawa Shin 他	呼吸器内科	EML4-ALK Gene Mutation Detected with New NGS Lung Cancer Panel CDx Using Sputum Cytology in a Case of Advanced NSCLC	Diagnostics 13巻14号 P2327 2023年7月	Original Article
9	Mineshita Masamichi, Nishine Hiroki, Handa Hiroshi 他	呼吸器内科	A Quantitative Computed Tomography Analysis of Fissure Integrity and Emphysema Destruction in Japanese Patients with Severe Chronic Obstructive Pulmonary Disease	Internal medicine a head of print 2024年	Original Article
10	Furuya Naoki, Kai He, David P Carbone	呼吸器内科	Patients' voice and passion lead to successful clinical trial, KISEKI study; Comments on "A phase II study (WJOG12819L) to assess the efficacy of osimertinib in patients with EGFR mutation-positive NSCLC in whom	Lung Cancer 178号 P143-144 2023年4月	Original Article
11	Handa Hiroshi, Ooka Seido, Shimizu Jun 他	呼吸器内科	Evaluation of airway involvement and treatment in patients with relapsing polychondritis	Scientific Reports 13巻1号 P8307- 2023年5月	Original Article
12	Kai Takahiko, Izumo Masaki, Okuno Taishi 他	循環器内科	Prevalence and clinical outcomes of noncardiac surgery after transcatheter aortic valve replacement.	The American Journal of Cardiology 210巻 P259-265 2024年1月	Original Article
13	Koga Masashi, Izumo Masaki, Yoneyama Kihei 他	循環器内科	Prognostic value of electrocardiographic left ventricular hypertrophy after transcatheter aortic valve implantation: insights from the OCEAN-TAVI registry.	The American Journal of Cardiology 204巻 P130-139 2023年10月	Original Article
14	Sasaki Kenichi, Kuwata Shingo, Izumo Masaki 他	循環器内科	Three-Year clinical impacts of permanence, resolution, and absence of newly-developed left bundle branch block after transcatheter aortic valve replacement.	The American Journal of Cardiology 202巻 P166-168 2023年9月	Original Article

15	Yoshida Toshiya, Doi Shunichi, Kida Keisuke 他	循環器内科	Detection of left main coronary trunk occlusion due to prosthetic aortic valve endocarditis using transoesophageal echocardiography.	BMJ Case Reports 17巻1号 Pe258734 2024年1月	Case report
16	Izumo Masaki	循環器内科	Effect of party balloon inflation maneuver in clinical practice	Cardiac Interventions Today P14-15 月	
17	Koga Masashi, Izumo Masaki, Kobayashi Yoshikuni 他	循環器内科	Safety and feasibility of zero-contrast transcatheter aortic valve implantation using balloon-expandable valves in patients with aortic stenosis and severe renal impairment: A single-center study.	Cardiovascular Revascularization Medicine 58巻 P68-76 2024年1月	Original Article
18	Kuwata Shingo, Izumo Masaki, Okuno Taishi 他	循環器内科	Impact of renal congestion in patients with secondary Mitral regurgitation after mitral transcatheter edge-to-edge repair.	Circulation Journal 88巻4号 P510-516 2024年3月	Original Article
19	Onishi Hirokazu, Izumo Masaki, Nishikawa Haruka 他	循環器内科	Prognostic value of transvalvular flow rate in patients with low-gradient severe aortic stenosis: A dobutamine stress echocardiography study.	Echocardiography 41巻1号 Pe15712 2024年1月	Original Article
20	Kasagawa Akira, Nakajima Ikutaro, Sasaki Kenichi 他	循環器内科	Atrial fibrillation patient with absence of left atrial appendage without previous cardiac surgery.	European Heart Journal Cardiovascular Imaging 24巻10号 Pe286 2023年9月	Case report
21	Miyahara Daisuke, Izumo Masaki, Sato Yukio 他	循環器内科	Prediction of symptom development and aortic valve replacement in patients with low-gradient severe aortic stenosis.	European Heart Journal Open 4巻2号 P oeaeo18 2024年3月	Original Article
22	Onishi Hirokazu, Izumo Masaki, Ouchi Toru 他	循環器内科	Clinical impact of aortic valve replacement in patients with moderate mixed aortic valve disease.	Frontiers in Cardiovascular Medicine 10巻P1259188 2023年8月	Original Article
23	Nakajima Ikutaro, Takano Makoto, Akashi Yoshihiro 他	循環器内科	Radiofrequency catheter ablation of the left ventricular epicardium as an electrophysiological substrate in a patient with idiopathic ventricular fibrillation associated with early repolarization.	Heart Rhythm Case Reports 9巻6号 P358-362 2023年6月	Case report
24	Okuno Taishi, Terauchi Karin, Kai Takahiko 他	循環器内科	Enhanced hemodynamic performance of a new-generation 23-mm balloon-expandable transcatheter heart valve.	JACC Cardiovascular Interventions 17巻3号 P454-456 2024年2月	その他
25	Shoji Tatsuro, Sato Yukio, Togashi Daisuke 他	循環器内科	ST-segment elevation during percutaneous left atrial appendage closure.	JACC Case Reports 29巻4号 P102216 2024年2月	Case report
26	Togashi Daisuke, Sasaki Kenichi, Okuyama Kazuaki 他	循環器内科	Two-year outcomes of ventricular-demand leadless pacemaker therapy for heart block after transcatheter aortic valve replacement.	The Journal of Innovations in Cardiac Rhythm Management 14巻6号 P5491-5498 2023年6月	Original Article
27	Sasaki Kenichi, Togashi Daisuke, Nakajima Ikutaro 他	循環器内科	Revisiting predictors of worse atrioventricular valve and left ventricular systolic function following pacemaker therapy.	Pacing and Clinical Electrophysiology : PACE 46巻12号 P1643-1651 2023年12月	Original Article
28	Sato Yoshinori, Aoki Tomonori, Sadashima Eiji 他	消化器内科	Long-term Risks of Recurrence After Hospital Discharge for Acute Lower Gastrointestinal Bleeding: A Large Nationwide Cohort Study	Clinical Gastroenterology and Hepatology 21巻13号 P3258-3269.e6. 2023年12月	Original Article
29	Komatsu Takumi, Sato Yoshinori, Kuroki Yuichiro 他	消化器内科	Impact of the COVID-19 pandemic on the time to emergency endoscopy and clinical outcomes in patients with upper gastrointestinal bleeding	DEN Open 4巻1号 Pe301 2023年11月	Original Article
30	Nakahara Kazunari, Michikawa Yosuke, Sato Junya 他	消化器内科	A novel self-assembling peptide hemostatic gel as rescue therapy for fistula bleeding after endoscopic ultrasound-guided hepaticogastrostomy	Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences 30巻9号 Pe66-e67 2023年9月	Case report

31	Ichikawa Kosuke, Makinouchi Ryuichirou,Machida Shinj 他	腎臓・高血圧内科	Periorbital ecchymosis in a patient with nephrotic syndrome.	Annals of Internal Medicine Clinical Cases 2巻7号 2023年7月	その他
32	Shibagaki Yugo, Yamazaki Hajime, Wakita Takafumi 他	腎臓・高血圧内科	Impact of treatment of hyperkalaemia on quality of life: design of a prospective observational cohort study of long-term management of hyperkalaemia in patients with chronic kidney disease or chronic heart failure in Japan.	BMJ Open 13巻12号 Pe074090 2023年12月	その他
33	Ogata Masatomo, Sumi Hirofumi, Shiizaki Kazuhiro 他	腎臓・高血圧内科	Comment on one-year romosozumab treatment followed by one-year denosumab treatment for osteoporosis in patients on hemodialysis: an observational study.	Calcified tissue international 113巻2号 P254-255 2023年8月	Case report
34	Ogata Masatomo, Osako Kiyomi, Terashita Maho 他	腎臓・高血圧内科	Consequences of kidney donation by age in Japanese living kidney donors: a single-center study.	Clinical and experimental nephrology a head of print 2024年3月	Original Article
35	Ogata Masatomo, Yazawa Masahiko, Terashita Maho 他	腎臓・高血圧内科	Acute tubulointerstitial nephritis possibly caused by vedolizumab for ulcerative colitis in a kidney transplant recipient: A case report.	Clinical Nephrology 100巻2号 P88-94 2023年8月	Case report
36	Shirai Kana, Yazawa Masahiko, Yoshida Keisuke 他	腎臓・高血圧内科	Point-of-care ultrasound for the diagnosis of congestive kidney due to severe acidemia: a case report.	Cureus 16巻3号 Pe57096 2024年3月	Case report
37	Ogata Masatomo, Yazawa Masahiko	腎臓・高血圧内科	Tonicity or serum osmolality? Comment on Management of Hyperosmolar Hyperglycaemic State (HHS) in Adults: An updated guideline from the Joint British Diabetes Societies (JBDS) for Inpatient Care Group.	Diabetic medicine : a journal of the British Diabetic Association 40巻11号 Pe15211 2023年11月	その他
38	Ogata Masatomo, Kato Masaki, Miyauchi Takamasa 他	腎臓・高血圧内科	De novo inflammatory bowel disease in kidney transplant recipients:a single-center case series study.	Inflammatory Intestinal Disease 9巻1号 P96-102 2024年3月	Original Article
39	Ogata Masatomo, Tominaga Naoto	腎臓・高血圧内科	Giant simple kidney cyst resulting in leg edema by inferior vena cava compression.	Internal Medicine 62巻20号 P3091-3092 2023年10月	Case report
40	Sakurada Tsutomu, Yoshida Keisuke, Morikubo Satoru 他	腎臓・高血圧内科	Resuming peritoneal dialysis after secondary embedding of the peritoneal dialysis catheter in the end-of-life period: A case report.	Peritoneal dialysis international : journal of the International Society for Peritoneal Dialysis 44巻1号 P70-72 2024年1月	Case report
41	Sakurada Tsutomu, Kojima Shigeki, Yamada Shohei 他	腎臓・高血圧内科	A multi-institutional, observational study of outcomes after catheter placement for peritoneal dialysis in Japan.	Peritoneal dialysis international : journal of the International Society for Peritoneal Dialysis 43巻6号 P457-466 2023年11月	その他
42	Ogata Masatomo, Fujii Hirotooshi, Sumi Hirofumi 他	腎臓・高血圧内科	Renal anemia with a relatively normal renal function in vasculitis-induced acute tubulointerstitial damage.	Renal failure 45巻1号 P2173490 2023年12月	Case report
43	Miyauchi Takamasa, Nishiwaki Hiroki, Mizukami Aya 他	腎臓・高血圧内科	Hyponatremia and mortality in patients undergoing maintenance hemodialysis: systematic review and meta-analysis.	Seminars in Dialysis 36巻4号 P303-315 2023年7月	Original Article
44	Sakurada Tsutomu, Kohatsu Kaori, Kojima Shigeki	腎臓・高血圧内科	Survey on patient satisfaction with a one-hour discussion on the choice of dialysis modality at the outpatient clinic.	Therapeutic Apheresis and Dialysis 27巻4号 P813-814 2023年8月	その他
45	Sakurada Tsutomu, Koitabashi Kenichiro, Murasawa Masaru	腎臓・高血圧内科	Effects of one-hour discussion on the choice of dialysis modality at the outpatient clinic: A retrospective cohort study using propensity score matching.	Therapeutic Apheresis and Dialysis 27巻3号 P442-451 2023年6月	Original Article
46	Ayaka Takemoto, Yoshio Nagai , Shin Kawanabe 他	代謝・内分泌内科	Correction: Patients with gestational diabetes mellitus may be treated in both early and late pregnancy, especially in patients with pre-pregnancy overweight: A cross-sectional study in Japan	Diabetol Int 15巻2号 P313 2023年12月	Original Article

47	Ayaka Takemoto, Yoshio Nagai, Shin Kawanabe 他	代謝・内分泌内科	Patients with gestational diabetes mellitus may be treated in both early and late pregnancy, especially in patients with pre-pregnancy overweight: A cross-sectional study in Japan	Diabetology International 14巻4号 P381-389 2023年7月	Original Article
48	Takeshi Oyanagi, Yuki Yoshi Sada, Yosuke Sasaki 他	代謝・内分泌内科	Associations of phase angle obtained by bioelectrical impedance analysis with muscle mass and strength in Japanese patients with type 2 diabetes	Endocrine Journal 70巻9号 P925-932 2023年9月	Original Article
49	Kenichi Yokota	代謝・内分泌内科	Adrenal arterial embolization: a possible new treatment for patients with primary aldosteronism.	Hypertension research 47巻2号 P358-360 2024年2月	Case report
50	Syutaro Uchiyama, Yuki Yoshi Sada, Syohei Mihara 他	代謝・内分泌内科	Oral Semaglutide Induces Loss of Body Fat Mass Without Affecting Muscle Mass in Patients With Type 2 Diabetes	Journal of Clinical Medicine Research 15巻7号 P377-383 2023年7月	Original Article
51	Mayuko Kano, Naoaki Mizuno, Hideyuki Sato 他	代謝・内分泌内科	Functional calcium-responsive parathyroid glands generated using single-step blastocyst complementation.	Proceedings of the National Academy of Sciences2023 120巻28号 Pe2216564120 2023年7月	Review
52	Sakurai K, Isahaya K, Imai T 他	脳神経内科	Impact of early introduction of biologics on internal medications for neuromyelitis optica spectrum disorder	Clinical and Experimental Neuroimmunology 14巻4号 P175-179 2023年7月	Original Article
53	Mitsuhashi S, Frith MC	脳神経内科	Analysis of Tandem Repeat Expansions Using Long DNA Reads.	Methods in molecular biology 2632号 P147-159 2023年2月	Original Article
54	Kaburagi M, Maki F, Hino S 他	脳神経内科	Video Motion Analysis as a Quantitative Evaluation Tool for Essential Tremor during Magnetic Resonance-Guided Focused Ultrasound Thalamotomy	Neurology International 15巻4号 P1411-1422 2023年11月	Original Article
55	Takao N, Yagishita N, Araya N 他	脳神経内科	A Large-Scale Whole-Genome Analysis of HTLV-1-Associated Myelopathy Identified Hereditary Spastic Paraplegias	Neurology® Genetics 10巻1号 Pe200108-5 2024年1月	Original Article
56	Sato Tomoo, Yamauchi Junji, Yagishita Naoko 他	脳神経内科	Long-term safety and efficacy of mogamulizumab (anti-CCR4) for treating virus-associated myelopathy.	Brain 146巻8号 P3181-3191 2023年8月	Original Article
57	Sato T, Nagai M, Watanabe O 他	脳神経内科	Multicenter, randomized, double-blind, placebo-controlled phase 3 study of mogamulizumab with open-label extension study in a minimum number of patients with human T-cell leukemia virus type-1-associated myelopathy.	Journal of neurology 271巻6号 P3471-3485 2024年3月	Original Article
58	Uemura Yu, Oshima Kumi, Fuseya Aika 他	血液内科	Aortitis after administration of pegfilgrastim to a healthy donor for peripheral blood stem cell collection	International Journal of Hematology 118巻6号 P772-775 2023年12月	Original Article
59	Ishizaki Y, Sakurai K, Kawasaki T 他	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	CXCL13 as a possible immunological surrogate marker of dermatomyositis: higher levels of CXCL13 in dermatomyositis than polymyositis	Journal of St. Marianna University 14巻2号 P103-115 2024年2月	Original Article
60	Mori M, Yoshizaki K, Watabe S 他	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	Safety, efficacy and pharmacokinetics of palivizumab in off-label neonates, infants, and young children at risk for serious respiratory syncytial virus infection: a multicenter phase II clinical trial.	The Lancet Regional Health - Western Pacific 39号 P100847-100847 2023年7月	Original Article
61	Mori M, Matsubara T	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	Overview of Guidelines for the Medical Treatment of Acute Kawasaki Disease in Japan (2020 Revised Version) and Positioning of Plasma Exchange Therapy in the Acute Phase.	Pediatric Infectious Disease Journal 42巻9号 Pe328-e332 2023年9月	Original Article
62	Kawahata K, Ishii T, Gono T 他	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	Phase 3, multicentre, randomised, double-blind, placebo-controlled, parallel-group study of ustekinumab in Japanese patients with active polymyositis and dermatomyositis who have not adequately responded to one or more standard-of-care treatments	RMD open 9巻3号 Pe003268 2023年8月	Original Article

63	Mizushima M, Sugihara T, Matsui T 他	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	Comparison between rheumatoid arthritis with malignant lymphoma and other malignancies: Analysis of a National Database of Rheumatic Disease in Japan	Seminars in arthritis and rheumatism 63巻 P152301 2023年11月	Original Article
64	Yudoh Kazuo, Sugishita Yodo, Suzuki-Takahashi Yuki	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	Bone Development and Regeneration 2.0	International Journal of Molecular Sciences 24巻 10号 P8761 2023年5月	Review
65	Umemoto K, Sunakawa Y, Ueno M 他	腫瘍内科	Clinical significance of circulating-tumour DNA analysis by metastatic sites in pancreatic cancer	British Journal of Cancer 128巻8号 P1603-1608 2023年4月	Original Article
66	Hiroyuki Arai, Madoka Takeuchi, Wataru Ichikawa 他	腫瘍内科	Correlation of multiple endpoints in the first-line chemotherapy of advanced gastric cancer: Pooled analysis of individual patient data from Japanese Phase III trials	Cancer Medicine 13巻1号 Pe6818 2023年12月	Original Article
67	Hiroyuki Arai, Yan Yang, Yasmine Baca 他	腫瘍内科	Predictive value of CDC37 gene expression for targeted therapy in metastatic colorectal cancer	European journal of cancer 201巻 P113914 2024年2月	Original Article
68	Ayako Doi, Takuro Mizukami, Hiroyuki Takeda 他	腫瘍内科	Clinical utility of geriatric assessment tools in older patients with gastrointestinal cancer.	Frontiers in oncology 13巻 P1110236 2023年5月	Original Article
69	Sunakawa Y, Kuboki Y, Watanabe J 他	腫瘍内科	Exploratory Biomarker Analysis Using Plasma Angiogenesis-Related Factors and Cell-Free DNA in the TRUSTY Study: A Randomized, Phase II/III Study of Trifluridine/Tipiracil Plus Bevacizumab as Second-Line Treatment for Metastatic Colorectal Cancer.	Targeted Oncology 19巻 1号 P59-69 2024年1月	Original Article
70	Izawa N, Masuishi T, Takahashi N 他	腫瘍内科	A Phase II Trial of Trifluridine/Tipiracil in Combination with Cetuximab Rechallenge in Patients with RAS Wild-Type mCRC Refractory to Prior Anti-EGFR Antibodies: WJOG8916G Trial.	Targeted Oncology 18巻 3号 P369-381 2023年5月	Original Article
71	Kubota Y, Shitara K	腫瘍内科	Zolbetuximab for Claudin18.2-positive gastric or gastroesophageal junction cancer	Therapeutic advances in medical oncology 3巻16号 P17588359231217967 2024年1月	Review
72	Oguchi Y, Miyake N, Ando K	神経精神科	Long-acting injectable antipsychotics as maintenance therapy for schizophrenia during the COVID-19 pandemic: A micro-narrative review.	Neuropsychopharmacol Rep 44巻1号 P34-41 2024年3月	Original Article
73	Shinya Miura, Nobuaki Michihata	小児科・新生児科	Predicting mortality in pediatric sepsis: A nationwide data analysis using a pediatric sepsis surveillance method	Journal of Infection and Chemotherapy 30巻2号 P93-97 2023年12月	Original Article
74	Kimura Sae, Mikami Shinya, Takagi Shimpei 他	消化器・一般外科	Presentaion of unruptured right gastric aneurysm due to segmental arterial mediolysis resected laparoscopically: A case report	International Journal of Surgery Case Reports 114巻号 P109183- 2023年12月	Case report
75	Mikami Shinya, Hisatsune Yasuhito, Hiwatari Masaki 他	消化器・一般外科	Analysis of Thoracoscopic Enucleation Combined with Esophagoscopy in the Prone Position for Esophageal Submucosal Tumor	JOURNAL OF LAPAROENDOSCOPIC & ADVANCED SURGICAL TECHNIQUES 34巻4号 P354-358 2024年2月	Original Article
76	Mikami Shinya, Takeharu Enomoto, Shimada Jun 他	消化器・一般外科	Thoracoscopic esophagectomy with subcarinal lymph node dissection in the prone position for esophageal cancer with a right top pulmonary vein	Jornal of Surgical Case Reports 2023巻8号 Prjad462 2023年8月	Case report
77	Koizumi Satoshi, Otsubo Takehito, Kobayashi Shinjiro 他	消化器・一般外科	Validating Hepatectomy Eligibility Criteria for Super Elderly Patients: A Retrospective Cohort Study	Journal of St. Marianna University 14巻2号 P81-92 2023年12月	Original Article
78	Masuda Akiyoshi, Koizumi Satoshi, Otsub Takehito	消化器・一般外科	Effects of Changes in Surgical Position on Central Venous Pressure and Stroke Volume Variation in Hepatectomy Cases	Journal of St. Marianna University 14巻2号 P65-79 2023年12月	Original Article

79	Fukuoka Asako, Makizumi Ryouji, Asano Takayuki 他	消化器・一般外科	Effects of Colonic Stent as Bridge to Surgery on Postoperative Short- and Long-term Outcomes: Comparison of Stent and Non-Stent Manegement in our Hospital	Journal of St. Marianna University 14巻1号 P21-30 2023年6月	Original Article
80	Komagamine Masahide, Nawata Kan, Kita Shota 他	心臓血管外科	Two cases of surgical correction of recurrent mitral regurgitation due to failed catheter- delivered Mitral Clip (MitraClip).	Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery 29巻5号 P266-269 2023年10月	Case report
81	Chiba Kiyoshi, Nishimaki Hiroshi, Tomita Masahiro 他	心臓血管外科	Total arch replacement versus debranching thoracic endovascular aortic repair for an aortic arch aneurysm	Italian Journal of Vascular and Endovascular Surgery 2022 30巻2号 P21-30月	Original Article
82	Homma Takahiro	呼吸器外科	A series of experiences with TissuePatchTM for alveolar air leak after pulmonary resection	General Thoracic and Cardiovascular Surgery 71巻10号 P570-576 2023年10月	Original Article
83	Homma Takahiro, Saji Hisashi, Shimada Yoshifumi 他	呼吸器外科	Experiences of novel cotton device for uniportal video-assisted thoracoscopic surgery: CS Two-Way HandleTM	Journal of thoracic disease 15巻5号 P2800-2805 2023年5月	Original Article
84	Homma Takahiro	呼吸器外科	Preoperative umeclidinium/vilanterol or tiotropium improves postoperative FEV₁ in lung cancer patients with comorbid untreated chronic obstructive pulmonary disease	Journal of thoracic disease 15巻4号 P1584-1594 2023年4月	Original Article
85	Homma Takahiro, Uehara Hirofumi, Saji Hisashi 他	呼吸器外科	Factors affecting insulation failure in reusable surgical devices	Scientific Reports 13巻1号 P13719- 2023年8月	Original Article
86	Homma Takahiro	呼吸器外科	Adult lymphangioma spreading under the scapula: a case report	Shanghai Chest 7巻 2023年4月	Case report
87	Ito H, Uchida M, Kaji T 他	脳神経外科	Left distal transradial approach for the treatment of a sacral extradural arteriovenous fistula: a technical note and literature review	World Neurosurgery 174巻 P25-29 2023年6月	その他
88	Ito M, Ueno J, Torii Y 他	整形外科	Utility of a navigated high-speed drill in robotic-assisted screw placement for spine surgery.	Cureus 16巻1号 Pe52779 2024年1月	Original Article
89	Akazawa T, Torii Y, Ueno J 他	整形外科	Comparison of radiographic and patient-reported outcomes after surgery in adolescent idiopathic scoliosis between robotics and navigation: an analysis using propensity score matching.	Cureus 15巻11号 Pe49061- 2023年11月	Original Article
90	Ueno J, Torii Y, Umehara T 他	整形外科	Robotics is useful for less-experienced surgeons in spinal deformity surgery.	European Journal of Orthopaedic Surgery & Traumatology 33巻5号 P1805-1810 2023年7月	Original Article
91	Akazawa T, Kotani T, Sakuma T 他	整形外科	Long-term changes in bone mineral density following adolescent idiopathic scoliosis surgery: a minimum 34-year follow-up.	European Journal of Orthopaedic Surgery and Traumatology 34巻1号 P425-431 2024年1月	Original Article
92	Akazawa T, Torii Y, Ueno J, Umehara T 他	整形外科	Learning curves for robotic-assisted spine surgery: an analysis of the time taken for screw insertion, robot setting, registration, and fluoroscopy.	European Journal of Orthopaedic Surgery and Traumatology 34巻1号 P127-134 2024年1月	Original Article
93	Akazawa T, Inoue G, Tanaka M 他	整形外科	Somnolence and dizziness during mirogabalin treatment in patients with neuropathic pain related to lumbar disease who switched from pregabalin: a retrospective study.	Global Spine Journal 13巻5号 P1319-1324 2023年6月	Original Article
94	Akazawa T, Kotani T, Sakuma T 他	整形外科	Health-related quality of life of patients with adolescent idiopathic scoliosis at least 40 years after surgery.	Spine (Phila Pa 1976) 48巻7号 P501-506 2023年4月	Original Article

95	Tsukada Hikaru, Hayakawa Nozomi, Aida Koichiro 他	腎泌尿器外科	Small renal cell carcinoma accompanied by extensive inferior vena cava tumor thrombus diagnosed by percutaneous transvenous biopsy	IJU Case Reports 7巻2号 P91-94 2023年12月	Case report
96	Shota Saji, Junichi Hasegawa, Junki Koike 他	産科・婦人科	Ultrasound Doppler Findings in Fetal Vascular Malperfusion Due to Umbilical Cord Abnormalities: A Pilot Case Predictive for Cerebral Palsy	Diagnostics 13巻18号 P2977 2023年9月	Case report
97	Chika Homma, Junichi Hasegawa, Yoko Nishimura 他	産科・婦人科	Declaration of emergency state due to COVID-19 spread in Japan reduced maternal transports without reduction in preterm delivery	International Journal of Gynecology and Obstetrics 161巻3号 P854-860 2023 年6月	Original Article
98	Kentaro Nakamura, Yukayo Terashita, Atsushi Manabe 他	産科・婦人科	Survey of Transitional Care Between Pediatrics and Obstetrics/Gynecology in Japan	Journal of Adolescent and Young Adult Oncology ahead of print 2024年2月	Original Article
99	Shota Saji, Junichi Hasegawa, Yinka Oyelese 他	産科・婦人科	Individualized management of vasa previa and neonatal outcomes	The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research 49巻11号 P2680-2685 2023年11月	Original Article
100	Kaoru Ito, Seido Takae, Kentaro Nakamura 他	産科・婦人科	The study of the efficiency of in vitro maturation of ovarian tissue oocytes in pediatric patients	Journal of assisted reproduction and genetics 40巻12号 P2787-2797 2023年12月	Original Article
101	Ryo Kanamori, Seido Takae, Kaoru Ito 他	産科・婦人科	Significance and Influence of Suturing for Ovarian Tissue Transplantation	Reproductive sciences 31 巻1号 P162-172 2023年4 月	Original Article
102	Natsumi Furuya, Junichi Hasegawa, Shota Saji 他	産科・婦人科	Optimal cervical-ripening method for labor induction in Japan after the era of controlled-release dinoprostone vaginal insert	The journal of obstetrics and gynaecology research 50巻1号 P40-46 2024年 1月	Original Article
103	Kitano Fumiya, Marui Yuhji, Sakurai Kenzo 他	眼科	Use of the superficialized brachial artery as vascular access for a patient with myasthenia gravis with a frequent need for plasmapheresis: a case report.	Internal medicine (Tokyo, Japan) a head of print 2024年1月	Case report
104	Sase K, Tsukahara C, Fujita N 他	眼科	Inhibition of p38 ameliorates axonal loss with modulation of autophagy in TNF-induced optic nerve damage	International Ophthalmology 43巻9号 P3067-3074 2023年4月	Original Article
105	Kitaoka Y, Sase K	眼科	Molecular aspects of optic nerve autophagy in glaucoma	Molecular Aspects of Medicine 94巻 2023年10 月	Review
106	Arizono I, Fujita N, Tsukahara C 他	眼科	Axonal Protection by Oral Nicotinamide Riboside Treatment with Upregulated AMPK Phosphorylation in a Rat Glaucomatous Degeneration Model	current issues in molecular biology 45巻 9号 P7097-7109 2023年 8月	Original Article
107	Wada Shinji, Matumoto Junichi, Osugi Masaya 他	放射線診断・I V R科	Transcatheter Arterial Embolization for Blunt Splenic Injury With Resuscitative Endovascular Balloon Occlusion of the Aorta: The Significance of Early Involvement of Radiologists	The Cureus Journal of Medical Science 16巻2号 Pe53753 2024年2月	Case report
108	Hamaguchi Shingo, Ogawa Yukihisa, Wada Shinji 他	放射線診断・I V R科	Prospective Evaluation of the Safety and Feasibility of N-Butyl Cyanoacrylate Embolization	Journal of St. Marianna University 14巻1号 P31- 37 2023年6月	Original Article
109	Hamaguchi Shingo, Nakashima Yuri, Dote Minoru 他	放射線診断・I V R科	Successful diagnosis of a localized liver tumor via transjugular liver biopsy after ascites hampered a percutaneous approach	Radiology Case Reports 19 巻1号 P117-121 2023年 10月	Case report
110	Haraguchi Takafumi, Matsuoka Shin, Yagihashi Kunihiro 他	放射線診断・I V R科	Quantitative Computed Tomography Analysis of the Longitudinal Change Between Centrilobular and Paraseptal Emphysema Subtypes:A Retrospective Study	Journal of Computer Assisted Tomography 47 巻5号 P746-752 2023年 9月～10月	Original Article

111	Haraguchi T, Kobayashi Y, Hirahara D 他	放射線診断・I V R科	Radiomics model of diffusion-weighted whole-body imaging with background signal suppression (DWIBS) for predicting axillary lymph node status in breast cancer	Journal of X-Ray Science and Technology, 31巻3号 P627-640 2023年3月	Original Article
112	Okada Yukinori, Zama Tatsuhiko, Itonaga Tomohiro 他	放射線治療科	Association between PET-CT accumulation in the hypothalamic /pituitary regions and neuron-specific enolase /primary tumor in limited-stage small cell lung cancer: a case-controlled retrospective study.	European journal of hybrid imaging 8巻1号 P4 2024年2月	Original Article
113	Yumi Obata, Yusuke Seino, Takeda Mako 他	麻酔科	Utility of Remimazolam for Fast-Track Recovery Following Surgical Aortic Valve Replacement in an Elderly Patient With Severe Aortic Stenosis: A Case Report	Cureus 16巻3号 Pe55812 2024年3月	Case report
114	Yumi Obata, Mako Takeda, Ayako Yamaura 他	麻酔科	Usefulness of Remimazolam for Anesthesia Management of Kidney Transplantation in a Patient with Cognitive Decline: A Case Report	J. St. Marianna Univ. 14巻1号 P45-48 2023年4月	Case report
115	Obata Yumi, Kamijo-Ikemori Atsuko, Shimmi Sachi 他	麻酔科	Clinical usefulness of urinary biomarkers for early prediction of acute kidney injury in patients undergoing transaortic valve implantation.	Scientific Reports 13巻号 P18569- 2023年10月	Original Article

計115件

- 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。
(注) 七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限り。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	白石 眞	脳神経内科	パーキンソン病治療の歴史	日本臨床 81巻8号 P1131-1137 2023年8月	Review
2	櫻井 謙三	脳神経内科	視神経炎に対する生物製剤による治療～実臨床の視点から～	眼科 65巻5号 P445-451 2023年5月	Review
3	鷹尾直誠, 佐藤知雄, 山内淳司 他	脳神経内科	「HTLV-1関連脊髄症(HAM)診療ガイドライン2019」の活用実態および内容の評価に関する全国アンケート調査	臨床神経学 63巻7号 P433-440 2023年7月	Original Article
4	木田 圭亮	循環器内科	日本における心不全薬物治療の進歩と現状	日中医学 38巻4号 P16-24 2024年2月	Review
5	池森敦子	腎臓・高血圧内科	腎うっ血によるAKI	内科総合誌 Medical Practive 40巻8号 P1198-1202 2023年8月	Review
6	森雅亮	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	こどもによくみられる膠原病・免疫不全症. 特集こどもの皮膚疾患検査マニュアル.	Monthly Book Derma. 334巻号 P17-27 2023年5月	その他
7	森雅亮	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	COVID-19の治療薬の変遷と現在使用できる治療薬の概要. 新型コロナウイルス感染症と周産期医療	周産期医学 53巻10号 P1434-1442 2023年10月	Review
8	中村幸嗣	小児科・新生児科	特集 新型コロナウイルス感染症と周産期医療 各論 小児医療への影響 国内小児医療への影響	周産期医学 53巻10号 P1518-1521 2023年10月	Review
9	三浦 慎也, 竹内 宗之	小児科・新生児科	小児ARDSの特徴	呼吸器内科 43巻5号 P554-559 2023年5月	Review

10	小林慎二郎，大坪毅人	消化器・一般外科	特集 膵癌と胆道癌治療 膵癌・胆道癌の 治療の現状膵癌外科手術の現状	Medical Practice 40巻12 号 P1884-1889 2023年 12月	Original Article
11	井田圭亮，小泉哲，木村紗衣 他	消化器・一般外科	臍帯ヘルニア術後の高度な腹腔内臓器 位置異常を伴う胆石症の1例	日本消化器外科学会雑誌 56巻6号 P323-328 2023 年6月	Case report
12	北岡康史	眼科	緑内障とオートファジー	眼科 65巻4号 P337-340 2023年4月	Review

計12件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 ・ 1. 目的および適用範囲、2. 定義、3. 倫理審査委員会、3. 1. 倫理審査委員会の審査研究、3. 2. 倫理審査委員会の構成員、3. 3. 倫理審査委員会の成立要件、3. 4. 部会員以外の参加、4. 審査の種類、4. 1. 通常審査、4. 2. 迅速審査、4. 2. 1 研究計画書の軽微な変更、5. 審査手順、5. 1. 審査申請、5. 2. 審査準備、5. 3. 審査、5. 4. 審査結果、5. 4. 1. 審査結果の種類、5. 4. 2. 審査結果、5. 4. 3. 審査結果通知、6. 現状報告、7. 研究計画の変更、8. 研究中止または終了、9. 秘密情報、10. 教育・研修、11. 事務担当者の責務、11. 1. 事務担当者の業務	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年4回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 - 利益相反の定義や管理委員会の管理基準、審査方法等について	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年3回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	【臨床研究講習会 A～C】 ・ 臨床研究講習会 (A) ・ 臨床研究講習会 (B) ・ 臨床研究講習会 (C) ※上記は、全て学内webシステムにて配信している。
・ 研修の主な内容 【臨床研究講習会 (A)】 ・ どうして「臨床研究」か？、日本における初めての臨床研究（比較試験）、どのような研究が該当するか？、日常診療と臨床研究の違い、臨床研究で最も大切なことは？、そもそも、臨床研究・臨床試験というものは、必ず「悪」を含むものが臨床試験、臨床試験の損得勘定は、臨床研究に関する規制、医学研究におけるスキャンダルの歴史、医療倫理の四原則の提唱、「医療倫理の4原則」と「ベルモント・レポート」、四原則の意義、ヘルシンキ宣言、同意説明文の記載内容（平易な言葉）、「アンケート」についての追記、倫理審査委員会、申請から倫理審査・承認まで、臨床研究法に拠る届出の流れ、統合指針による申請の流れ、事前登録、2021年指針統合のポイント、統合に際して、統合指針のポイント(1)～(3)、臨床研究を実施する時の必須チェックポイント、臨床研究における大切な区別(その1、2)、侵襲、軽微な侵襲、軽微な侵襲の実例1～2、介入研究、同意取得、データの保管、試料・情報の保管方法、既存資料・情報、既存資料・情報の同意の手続き、モニタリング・監査、「適応外使用」などについての考え方、個人情報保護法と匿名化について、個人情報とプライバシー、用語の解説1、医学研究に大切な用語の説明1、「匿名加工情報」、「研究」は特別扱いされている！、用語の説明2、有害事象について（治験の場合を含む）、有害事象の定義、明らかに違う、と感じても、有害事象と重篤な有害事象、治験依頼者から規制当局への副作用報告期限、まとめ：「有害事象が発生したら・・・」、資料の保管とSDV、SDVの実際（治験の例）、「特定臨床研究」の範囲について、法律に基づく資金提供の公表範囲、Conflict of Interest について、ゲルシンガー事件にみる深刻な利益相反状態、利益相反の開示、COIの報告義務、公益通報、大規模臨床試験、日本における初めての臨床研究（比較試験） 【臨床研究講習会 (B)】 ・ どうして「臨床研究」か？、日本における初めての臨床研究（比較試験）、日常診療と臨床研究の違い、臨床研究で最も大切なことは？、そもそも、臨床研究・臨床試験というものは、必ず「悪」を含むものが臨床試験、臨床試験の損得勘定は、臨床研究を実施する時の必須チェックポイント、実際に臨床研究計画を立てよう、プロトコル（計画書）作ることの意味、臨床研究の種類、どんな臨床研究が素晴らしいか？、-研究デザインと根拠の強さ -科学的根拠の質の分類- 研究デザインの分類-、臨床試験の王様、エステ通いのケースレポート、エステ通いのケースシリーズ、治療しない人たちはどうなるか？、無作為化コントロール試験・ランダム化比較試験、盲検化（マスク）・二重盲検化とは？、プラセボの必要性、エラーとバイアス、バイアスを減らす努力(1)～(3)、臨床試験事前登録の必要性、科学的理由：「出版バイアスの防止」、観察研究の典型であるレジストリー研究を考える、頭の中で考えること、介入研究と観察研究の違い、具体的なお話、1. 目的がよくわからない、2. 目的が2つ（以上）、研究計画はなるべく単純に！、3. 比較試験の基準が不明確、4. サンプルサイズが適切でない、探索型研究を上手に利用する、研究デザインの分類、観察研究のコツ、前向き観察研究の利点とコツ、有害事象と試験デザイン・試験実施、有害事象について（治験の場合を含む）、有害事象の定義、明らかに違う、と感じても、有害事象と重篤な有害事象、「重篤な有害事象」の定義、「重篤」は「重症度」と一致しない、有害事象に対する対応、試験開始前までに行う準備、試験薬（治験薬）との因果関係判定基準、試験薬（治験薬）との因果関係、治験依頼者から規制当局への副作用報告期限、まとめ：「有害事象が発生したら」、大規模臨床試験、日本における初めての臨床研究（比較試験） 【臨床研究講習会 (C)】 ・ 臨床研究と言ってもいろいろあって…用語だけでも混同しやすく…、研究デザインの分類、臨床試験(trial)の分類、臨床研究等の分類の整理、つまり…臨床研究の手続きにおいては…、〔申請書類入手の実際の手順〕、患者同意説明文（各自で作成）、迅速審査（書面審査）、通常診療によって得られた診療情報を用いる観察研究、他の研究機関への既存試料・情報の提供に関する届出書、有害事象報告で頻発する失敗、とにかく、申請関連の作業の時に、「適応外使用」などについての考え方、未承認薬などを使う時の現実的問題、未承認薬を使用する場合・適応外使用をする場合 本学のルール（特定機能病院の場合）、未承認の手技・高難度の手技を導入する場合 本学のルール（特定機能病院の場合）、その他（お問合わせ先）	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

本学には、後期研修プログラムとして「任期付助教」と「大学院」の2つのコースが設けられている。
「任期付助教」は、3～5年間で専門分野の研修を行うが、特に内科学9分野・外科学5分野については、細分化された研修に入る前の前半2～3年間で各分野をラウンドする内容となっており、広汎な疾患を経験した後で各専門領域の研修を行うことができる。
任期付助教終了後は専門医の申請が可能であり、またこの期間は本学の規定により研究歴として加算されるため、学位申請も可能となっている。
一方、「大学院」は指導教授の指導のもと4年間学術研究を行い、その研究成果を取りまとめ提出、学内の最終審査に合格すれば博士(医学)の学位が取得できる。
なお、大学院学生身分を有しつつ「診療助手」として病棟・外来の診療業務につくことが出来る制度があり、大半の大学院学生は研究に専念する期間以外にも自分の目指す臨床分野の後期研修を行っており、このコースでは、学位取得と同時に専門医の取得も可能である。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	278人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
安田 宏	内科	部長	40年	
大平 善之	総合診療内科	部長	24年	
峯下 昌道	呼吸器内科	部長	38年	
明石 嘉浩	循環器内科	部長	28年	
立石 敬介	消化器内科	部長	31年	
柴垣 有吾	腎臓内科	部長	31年	
曾根 正勝	代謝・内分泌内科	部長	28年	
山野 嘉久	脳神経内科	部長	31年	
新井 文子	血液内科	部長	36年	
川畑 仁人	リウマチ内科	部長	32年	
砂川 優	腫瘍内科	部長	21年	
古茶 大樹	神経精神科	部長	38年	
北東 功	新生児科	部長	29年	
清水 直樹	小児科	部長	34年	
民上 真也	外科・消化器外科	部長	32年	
縄田 寛	心臓血管外科	部長	26年	
佐治 久	呼吸器外科	部長	29年	
古田 繁行	小児外科	部長	28年	
津川 浩一郎	乳腺・内分泌外科	部長	37年	
村田 英俊	脳神経外科	部長	29年	
仁木 久照	整形外科	部長	40年	
梶川 明義	形成外科	部長	40年	
門野 岳史	皮膚科	部長	32年	
菊地 栄次	泌尿器科	部長	30年	

鈴木 直	産婦人科	部 長	34年	
北岡 康史	眼科	部 長	27年	
小森 学	耳鼻咽喉科	部 長	20年	
三村 秀文	放射線診断・IVR科	部 長	37年	
中村 直樹	放射線治療科	部 長	26年	
井上 莊一郎	麻酔科	部 長	32年	
小池 淳樹	病理診断科	部 長	34年	
藤谷 茂樹	救急科	部 長	34年	
佐々木 信幸	リハビリテーション科	部 長	27年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2) 現状
管理責任者氏名	病院長 大坪 毅人
管理担当者氏名	事務部長 安藤 あゆ

		保 管 場 所	管 理 方 法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	事務部管理課
		各科診療日誌	事務部管理課
		処方せん	薬剤部、IT戦略推進室、診療記録管理室
		手術記録	IT戦略推進室、診療記録管理室
		看護記録	IT戦略推進室、診療記録管理室
		検査所見記録	IT戦略推進室、診療記録管理室
		エックス線写真	IT戦略推進室、診療記録管理室
		紹介状	IT戦略推進室、診療記録管理室
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	IT戦略推進室、診療記録管理室
		従業者数を明らかにする帳簿	人事部人事課
		高度の医療の提供の実績	事務部管理課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	事務部管理課
		高度の医療の研修の実績	事務部管理課
		閲覧実績	事務部管理課
		紹介患者に対する医療提供の実績	メディカルサポートセンター
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	事務部管理課、薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室

			保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学技術部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学技術部	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学技術部	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学技術部	

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	診療記録管理室
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療記録管理室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理室
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理室
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	薬剤部
		監査委員会の設置状況	事務部管理課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理室
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理室
		職員研修の実施状況	人事部人事課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理室 薬剤部 臨床工学技術部
		管理者が有する権限に関する状況	総務部総務課
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	法務・監査室
		開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務部総務課

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ② 現状
閲覧責任者氏名	病院長 大坪毅人
閲覧担当者氏名	事務部長 安藤あゆ
閲覧の求めに応じる場所	事務部管理課
閲覧の手続の概要 (1) 診療記録関係は、診療記録管理室 診療記録の閲覧は「大学病院における診療記録の」に基づき行っている。 診療記録の開示は「大学病院における診療情報の開示要項」に基づき行っている。 「診療記録等開示申請書」による申請時に請求者確認を身分証等で行い、主治医、診療部長、病院長等に許可申請を行い、決裁後に提供を行っている。 (2) (1) 以外は、事務部管理課	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前 年 度 の 総 閲 覧 件 数		延	0 件
閲 覧 者 別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	1 件
	地方公共団体	延	1 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 無
・ 指針の主な内容： 1. 基本的考え方 2. 用語の定義 3. 委員会、体制 4. 職員研修 5. 事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策 6. インシデント・アクシデント・合併症の診療記録記載 7. 重大アクシデント等発生時の対応 8. 医療事故調査制度支援センターへの報告 9. 患者からの相談への対応 10. 指針の閲覧および医療従事者と患者との情報共有 11. マニュアルの整備 12. 指針の改訂	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
・ 設置の有無（有・無） 1. 医療安全統括会議 開催状況：定例12回、臨時3回 活動の主な内容： (1) 医療安全管理に係る基本方針、管理体制に関すること。 (2) 医療安全対策、推進、教育に関すること。 (3) 院内死亡事例の検討 (4) アクシデント、合併症事例の検討 (5) 安全管理に関わる職員への周知、研修に関すること (6) 安全管理のため立案された改善策の実施状況の調査、見直しに関すること (7) 医療安全に関わる各部門、各委員会からの報告事項の検討と承認 (8) 病院長からの諮問事項に関すること (9) その他、医療安全の推進に関すること 2. セーフティマネジメント委員会 開催状況：年12回 活動の主な内容 (1) 事故等の発生要因分析と改善策等の検討及びその評価 (2) マニュアル、改善策等の実施状況及び効果の評価 (3) 医療安全の推進に関する事項 (4) その他セーフティマネージャーの業務に関する事項	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 151 回
・ 研修の内容（すべて）： ・ 第1回 医療安全職員研修会「2021、2022年度重大インシデント・アクシデント」e-learning研修 ・ 第2回 医療安全職員研修会「転倒転落 暴言暴力対応」e-learning研修	

2023年度

医療安全職員研修会『アラーム削減に関する取り組みについて』

- ・新入職オリエンテーション
- ・研修医オリエンテーション
- ・中途採用者、復職者、異動者研修
- ・看護師経年別研修（2年目、3年目、4年目、5年目）集合教育
- ・委託業者医療研修会 DVD研修

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 （ ☒ 有 ☐ 無 ）
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

【院内救急システム運営委員会】

- ・ コードブルー、RRS（Rapid Response System）起動事例について検証を行い、必要時当該科や当該部署にフィードバックを行う。
- ・ 予期せぬ心肺停止について審議する。

【報告事例検討委員会】

- ・ 全死亡症例、アクシデント3b以上、合併症、必要時インシデント事例を検討する。
- ・ 当該科、当該部署より提出された再発防止策の妥当性を検証する。

【医療安全研修委員会】

- ・ 医療安全関連及び感染に関する新人看護師オリエンテーション、中途新採用者、異動・復職者研修の企画評価を行う。
- ・ 研修重複を避け日程調整を行い実施した。

【転倒・転落防止に関するWG】

- ・ 事象レベルの3b以上の事例に関して検討した。
- ・ 院内の転倒・転落の減少に向けた設備の検討や多職種のラウンド実施に向けての検討を行った。
- ・ 職員研修準備、実施を行った。

【保険請求不可材料・破損薬剤の報告方法に関するWG】

- ・ 破損薬剤について金額や月別の部署状況や、廃棄に至った背景を共有し削減に向けて対策を検討した。

【麻薬組成に関するWG】

- ・ 院内の麻薬のインシデントの共有を行い、濃度法や速度法における流量間違いを防止するための対策について意見交換を行った。

【生体情報モニタアラーム管理に関するTF】

- ・ 院内で起こった生体情報モニタに関連するインシデントやアクシデントの共有を行った。
- ・ 職員教育のための研修会の企画運営を行った。
- ・ 多職種によるチームで院内のラウンドを定期的の実施し、生体情報モニタの整備と管理状況の確認を行い現場での問題をあげ改善に向けた働きかけを実施した。

【肺静脈血栓塞栓症予防に関するWG】

・既存のマニュアルの見直しを実施し、効果的な予防対策が取れるための運用やシステムの見直しを実施した。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
・ 指針の主な内容：「医療関連感染対策指針」を作成し、院内マニュアルである「院内感染防止の手引き（第4版）」の冒頭に掲載している。指針の主な内容は以下の通りである。 1. 基本理念 2. 感染管理に係る組織、委員会 3. 職員研修、教育の実施 4. 感染対策マニュアルの整備 5. 医療関連感染サーベイランスの実施 6. 適正抗菌薬療法の推進 7. 職業感染防止 8. 院内感染発生時の対応 9. 患者への情報提供と説明（指針の閲覧に関する基本方針） 10. 指針の改訂（最終改訂 2022年12月20日）	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
・ 活動の主な内容：委員長は感染制御部部长、委員は感染制御部、主たる診療科医師、看護部、臨床検査技術部、薬剤部、臨床病理診断技術部、事務（施設・人事など）職員で構成し、感染管理体制の確保および推進のため感染管理に係る事項を審議する。議題の主な内容は以下の通りである。 1. 院内感染サーベイランスを含む疫学に関する事 2. 院内感染の発生の要因及び対応に関する事 3. 滅菌及び消毒に関する事 4. 院内感染で注意すべき微生物及びその感染防止に関する事 5. 原因微生物別感染防止対策に関する事 6. 用途別、菌種別消毒薬に関する事 7. 感染症法等で規定された感染症の届出に関する事 8. 感染症報告書に関する事 9. 労働災害上の感染措置、取扱いに関する事 10. 院内感染防止のための検査に関する事 11. 環境微生物検査に関する事 12. 感染性廃棄物の適正処理に関する事 13. 院内感染防止マニュアルの改訂に関する事 14. 病院長からの諮問事項に関する事 15. その他、感染防止に関する事	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年20回
・ 研修の内容（すべて）：全職員対象の研修会を年2回開催している。それ以外に、新入職者に対する研修、看護師を対象にした研修などを合計すると年間20回程度の研修会を開催している。研修の主な内容は以下の通りである。 1. 院内感染の発生要因分析と改善策等の検討及びその評価 2. マニュアル・改善策等の実施状況及び効果の評価 3. 感染防止の推進に関する事項 ※2023年度研修会（全職員対象）：「疥癬の病態と院内感染対策」「疥癬の治療薬について」（第1回感染対策研修会）「今日から活用できる梅毒学」「梅毒の治療薬」「当院の発熱者の対応について」（第2回感染対策研修会） 【対象者別で行った研修会】「新入職オリエンテーション（医師・看護師・メディカルスタッフ・事務）」「感染リンクナース会」「SSI学習会」「看護師経年別研修」等	

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)
 - 1. 「感染症発生報告書」に基づいて行政へ報告を行い、毎月院内向けに集計・報告している
 - 2. 毎月部署毎の臨床分離菌の検出状況、薬剤感受性を集計して報告している
 - 3. 抗菌薬使用状況を集計して報告している
 - 4. サーベイランスを実施（SSI・針刺し切創など）し、院内講習等で報告している
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - 1. 抗MRSA薬・カルバペネム系薬・ピペラシリン/タゾバクタムの抗菌薬使用届出制度（電子カルテによる症例の確認）
 - 2. 細菌検査室からの報告（日報・週報）に基づいて症例毎に助言を行う
 - 3. ICTによる病棟ラウンド・コンサルテーションの実施
 - 4. 当院のマニュアルである「院内感染防止の手引き」の内容の追加・変更と職員への周知
 - 5. 「感染制御部ニュース」（ニュースレター）の発行

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための
体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	(有) 無																					
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 6 回																					
・ 研修の主な内容： <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">研修日</th> <th style="width: 45%;">研修内容</th> <th style="width: 45%;">参加者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4月4日</td> <td>2023年度新入職者オリエンテーション 当院の医薬品安全管理体制について</td> <td>医師61名、看護師139名、 その他有資格者51名、事務員他14名</td> </tr> <tr> <td>6月30日</td> <td>看護師さん向け病棟勉強会（レジメン一般）</td> <td>看護師7名</td> </tr> <tr> <td>7月配信</td> <td>第1回医薬品安全講習会 テーマ：医療安全における医薬品取り扱いの注意点 ～事例から学ぶリスクマネジメント～</td> <td>医師615名、研修医86名、 薬剤師83名、看護師1,289名</td> </tr> <tr> <td>7月26日</td> <td>7西 抗がん剤勉強会（副作用について）</td> <td>看護師16名</td> </tr> <tr> <td>3月配信</td> <td>医薬品安全講習会（医薬品副作用被害救済制度について）</td> <td>医師365名、薬剤師76名、看護師1,008名</td> </tr> <tr> <td>3月22日</td> <td>7東 麻薬勉強会</td> <td>看護師8名</td> </tr> </tbody> </table>		研修日	研修内容	参加者	4月4日	2023年度新入職者オリエンテーション 当院の医薬品安全管理体制について	医師61名、看護師139名、 その他有資格者51名、事務員他14名	6月30日	看護師さん向け病棟勉強会（レジメン一般）	看護師7名	7月配信	第1回医薬品安全講習会 テーマ：医療安全における医薬品取り扱いの注意点 ～事例から学ぶリスクマネジメント～	医師615名、研修医86名、 薬剤師83名、看護師1,289名	7月26日	7西 抗がん剤勉強会（副作用について）	看護師16名	3月配信	医薬品安全講習会（医薬品副作用被害救済制度について）	医師365名、薬剤師76名、看護師1,008名	3月22日	7東 麻薬勉強会	看護師8名
研修日	研修内容	参加者																				
4月4日	2023年度新入職者オリエンテーション 当院の医薬品安全管理体制について	医師61名、看護師139名、 その他有資格者51名、事務員他14名																				
6月30日	看護師さん向け病棟勉強会（レジメン一般）	看護師7名																				
7月配信	第1回医薬品安全講習会 テーマ：医療安全における医薬品取り扱いの注意点 ～事例から学ぶリスクマネジメント～	医師615名、研修医86名、 薬剤師83名、看護師1,289名																				
7月26日	7西 抗がん剤勉強会（副作用について）	看護師16名																				
3月配信	医薬品安全講習会（医薬品副作用被害救済制度について）	医師365名、薬剤師76名、看護師1,008名																				
3月22日	7東 麻薬勉強会	看護師8名																				
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況																						
・ 手順書の作成 (有) 無) ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： ・ 医薬品保管管理・調剤・供給・情報提供・安全使用・教育研修 ・ 医薬品安全管理に関する定期巡回を年3回実施 ・ その回ごとに重点項目を決め、保管状況、期限等を確認する ・ 手順書に基づく業務の実施状況の確認																						
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況																						
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有) 無) ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr style="background-color: #f8d7da;"> <th style="width: 50%;">診断名</th> <th style="width: 50%;">医薬品名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 肝のう胞</td> <td>ピシバニール注射用 1KE</td> </tr> <tr> <td>2 NORSE(new-onset refractory status epilepticus)</td> <td>エンドキサン注</td> </tr> <tr> <td>3 腎移植後急性拒絶反応</td> <td>献血ヴェノグロブリン IH10%</td> </tr> <tr> <td>4 未熟児動脈管開存症</td> <td>イブリーフ（血小板減少のある患者に禁忌）</td> </tr> <tr> <td>5 尿管癌後後腹膜浸潤多発リンパ節転移</td> <td>バベンチオ(Infusion reaction 症例に対する再投</td> </tr> </tbody> </table>		診断名	医薬品名	1 肝のう胞	ピシバニール注射用 1KE	2 NORSE(new-onset refractory status epilepticus)	エンドキサン注	3 腎移植後急性拒絶反応	献血ヴェノグロブリン IH10%	4 未熟児動脈管開存症	イブリーフ（血小板減少のある患者に禁忌）	5 尿管癌後後腹膜浸潤多発リンパ節転移	バベンチオ(Infusion reaction 症例に対する再投									
診断名	医薬品名																					
1 肝のう胞	ピシバニール注射用 1KE																					
2 NORSE(new-onset refractory status epilepticus)	エンドキサン注																					
3 腎移植後急性拒絶反応	献血ヴェノグロブリン IH10%																					
4 未熟児動脈管開存症	イブリーフ（血小板減少のある患者に禁忌）																					
5 尿管癌後後腹膜浸潤多発リンパ節転移	バベンチオ(Infusion reaction 症例に対する再投																					

	与)
6 多発性硬化症	リツキシマブ BS 点滴静注
7 フィラデルフィア染色体陽性急性リンパ性白血病	ダサチニブ錠
8 卵巣がん (IVB 期、BRCA1 バリエント陽性)	シスプラチン(過敏症の既往歴がある患者への投与)
9 両大血管右室起始症、不眠	メラトベル顆粒小児用 0.2%(年齢が適応外)
10 オスラー病	フェインジェクト静注 500mg (過敏症の既往歴のある患者への投与)
11 抗 NMDA 受容体脳炎	リツキシマブ BS 点滴静注
12 化膿性肩関節炎	ゲンタマイシン硫酸塩注射液
13 化膿性肩関節炎	ゲンタマイシン硫酸塩注射液
14 COVID-19 関連脳症	献血ヴェノグロブリン IH10%
15 抗 sez6L2 抗体陽性自己免疫性脳炎	リツキシマブ BS 点滴静注
16 血管周皮腫	スーテントカプセル
17 右膝人工関節術後感染	ゲンタマイシン硫酸塩注射液
18 末梢性 T 細胞リンパ腫	タルグレチン+ポテリジオ
19 未熟児動脈管開存症	イブリーフ (血小板減少のある患者に禁忌)
20 左腎盂癌	エンハーツ点滴静注
21 C-NORSE(Cryptogenic new-onset refractory status epilepticus)	リツキシマブ BS 点滴静注
22 皮膚筋炎	メトジェクト皮下注
23 未熟児動脈管開存症	イブリーフ (血小板減少のある患者に禁忌)
24 左膝人工関節術後感染	ゲンタマイシン硫酸塩注射液
25 視神経脊髄炎スペクトラム障害	エンドキサン注
26 未熟児動脈管開存症	イブリーフ (血小板減少のある患者に禁忌)
27 大腸がん・転移性肝腫瘍	mFOLFOX6
28 フィラデルフィア染色体陽性急性リンパ性白血病	ビーリンサイト+アイクルシグ
29 未熟児動脈管開存症	イブリーフ (血小板減少のある患者に禁忌)
30 不整脈原性右室心筋症	ジャディアンズ錠 (年齢が適応外)

- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

薬剤部内に医薬品情報室を設置し、PMDA、DSU、海外文献、学会誌、DRUGDEX、大学図書館、製薬会社より最新情報を入手し、DIニュース、院内メール、病棟担当薬剤師等により情報提供を行っている。緊急安全性情報等の特に重大な情報に関しては、閲覧リストを提出することで周知の確認を実施している。また院内で起こった副作用を収集し、薬事委員会で周知している。

-IT戦略推進室又は薬剤部部門システムより必要に応じ、使用量、使用患者、処方医師、使用診療科等のデータを抽出し把握している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための
体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	(有) 無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 49 回
・ 研修の主な内容： 特定機能病院に必要な医療機器研修（AED）1回 特定機能病院に必要な医療機器研修（人工呼吸器）2回 特定機能病院に必要な医療機器研修（除細動器）2回 特に必要と考えられる医療機器研修（人工心肺装置）3回 特に必要と考えられる医療機器研修（人工呼吸器）30回 特に必要と考えられる医療機器研修（血液浄化装置）4回 特に必要と考えられる医療機器研修（閉鎖式保育器）2回 特に必要と考えられる医療機器研修（診療用高エネルギー放射線発生装置）3回 特に必要と考えられる医療機器研修（診療用放射線照射装置）2回	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定 (有) 無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： 人工心肺装置及び補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動器、閉鎖式保育器、輸液ポンプ、シリンジポンプ、経腸栄養ポンプ、生体情報モニタ、電気手術器、麻酔器、電動手術台、手術用内視鏡システム、診療用高エネルギー放射線発生装置（委託）、診療用放射線照射装置（委託）、X線CT装置（委託）、磁気共鳴画像診断装置（委託）	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有) 無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： 1. 小児科（適応外使用） 高度の肺動脈狭窄の肺動脈ステント術に動脈用ステントを使用。 2. 整形外科（適応外使用） 関節内に薬剤注入用デバイスを留置し、そこから微量の抗菌薬を持続注入する。 3. 循環器内科（適応外使用） 腎動脈再々狭窄病変に対する冠動脈用薬剤溶出性ステントの留置。 ・ その他の改善のための方策の主な内容： クラスⅢ、クラスⅣおよび医療機器安全管理委員会が必要とした新しい機器が導入される際は当該機器の使用に携わる医療従事者等の研修を実施することを義務付けている。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有 無
・ 責任者の資格（医師・歯科医師） ・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 【統括の方法】 ・ 医療安全管理室に会議や業務の合間に立ち寄り、スタッフに声を掛け、指示を出す。必要時、管理者への報告を行う。できない場合は、室長や専従医師、専任医師等に指示を出し、統括を図っている。 ・ ワーキンググループ等にも可能な限り参加している。 【医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、放射線管理責任者との連携の方法】 ・ 定期的な協議の場がある。また、必要時、その都度、審議している。	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (14名) ・ 無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 ・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 IT 戦略推進室又は薬剤部部門システムより必要に応じ、使用量、使用患者、処方医師、使用診療科等のデータを抽出し把握している。 【各種情報の整理】 緊急安全性情報、安全性情報、添付文書改訂のお知らせ等が発出された場合、以下のように分類する。 ①緊急安全性情報 ②安全性情報 ③それ以外で特に職員への周知が必要と考えられる情報 ④その他 ①～③については書面にて対象薬剤を使用する部署の職員に周知を行う。①～③のうち特に重要な情報については、カンファレンス、看護師対象勉強会を通して薬剤師が周知する。特に重要と判断した情報は定期的にリマインドする。 ①～③の情報について書面にて情報の周知を行った際、その情報に関わる部署は、部署の職員が情報の伝達を受けた旨の署名を行う。さらに、①～③のうち、特に重要と判断した情報については、MUEを実施し情報伝達内容に沿った診療が行われているか調査する。調査結果を評価した上で、必要に応じ再度注意喚起を行う。 【医薬品安全管理責任者への報告】 ①～③の情報を指名された薬剤師が把握した場合は、医薬品安全管理責任者名で院内に発出する。また、その情報に関わる部署は、部署の職員が情報の伝達を受けた旨の署名を行う。さらに、①～③のうち、特に重要と判断した情報については、医薬品安全管理責任者の指示で MUE を実施し情報伝達内容に沿った診療が行われているか調査する。調査結果を評価した上で、必要に応じ再度注意喚起を行う。 ・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 薬剤師が、調剤、外来指導、病棟業務等において未承認等医薬品の使用を把握した際には、適応外使用医薬品管理マニュアルを用いて分類し、薬剤管理指導記録に記録し、情報管理部門より上記記録の抽出データを得て、医薬品安全管理責任者より指名された薬剤師が使用状況を把握・確認する。又は医師からの申請により把握する。 【リスク検討の有無、処方の妥当性等の確認】 医薬品安全管理責任者より指名された薬剤師が適応外使用医薬品管理マニュアルを用いて、重篤度、有用度を評価することで、処方の妥当性について確認する。必要に応じて、処方した医師等に対して処方の必要性や論文等の根拠に基づくリスク検討の有無を確認する。 【処方した医師等に対し処方変更等の提案、医薬品安全管理責任者への報告】 医薬品安全管理責任者より指名された薬剤師が適応外使用医薬品管理マニュアルを用いて分類し、重	

篤度、有用度が低い分類であった場合、薬剤部の小委員会で評価を行い、使用の可否について診療科の長に評価の結果を基に意見を伝え、必要な場合は処方提案、生命倫理委員会への申請など指導を行う。

・担当者の指名の有無（有・無）

・担当者の所属・職種：

（所属：薬剤部，職種 薬剤師）	（所属：薬剤部，職種 薬剤師）
（所属：薬剤部，職種 薬剤師）	（所属：薬剤部，職種 薬剤師）
（所属：，職種）	（所属：，職種）
（所属：，職種）	（所属：，職種）

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況

☒有・無

・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無（☒有・無）

・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：

① インフォームドコンセントに用いる説明・同意文書に関する確認

診療記録管理委員会の下部組織である説明・同意検討部会で、説明・同意文書の書式を一括管理している。2023年1月のシステム変更に伴い電子署名となったため、説明・同意検討部会で審査を行った院内共通書式を使用している。

② インフォームドコンセントに関する記載内容等の確認

医療安全管理室の報告事例検討委員会等で、患者に実施された医療行為について、事前に適切な説明を行っているか、当該患者の同意を得られているかを確認している。また、診療記録管理委員会では、診療記録・電子カルテへの記載内容の点検に関する協議を行い、下部組織である診療記録評価部会で、記載内容の監査を実施している。

指導の内容

②監査実施後は、記載内容の評価結果を取りまとめ診療記録管理委員会等で報告し、各診療科へフィードバックすることで改善を図っている。

③電子カルテでは患者ごとのインフォームドコンセントに関する記事を一括表示出来るよう「インフォームドコンセント」のタイトル選択と、記入漏れをなくすためのテンプレート使用について指導を行っている。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況

☒有・無

・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：

：記載内容の確認

①診療記録等の作成状況を日々確認し、記載不備に関してはその都度、記載医師や看護師等に記載完了または追記を促している。

②診療録の管理者は病院全体の退院時要約の作成状況を把握し改善に努めている。未作成の場合は督促を行っている。

③「診療記録監査実施要綱」に基づき、診療記録監査を適宜実施し記載内容の確認を行っている。

：指導の内容

①診療記録管理委員会で、診療記録に関する事項について周知を図っている。

②監査実施後は記載内容の評価結果を取りまとめ、診療記録管理委員会等で報告し、各診療科へフィードバックすることで改善を図っている

⑥ 医療安全管理部門の設置状況

☒有・無

所属職員：専従（16）名、専任（1）名、兼任（9）名

うち医師：専従（1）名、専任（1）名、兼任（4）名

うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

うち看護師：専従（4）名、専任（ ）名、兼任（2）名

（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容

1. 推進担当に関する業務

- (1) 全死亡事例の検証
- (2) インシデント、アクシデント、合併症、手術・IVRセンターオカレンス、内視鏡センターオカレンスの収集分析
- (3) 重大事故発生時の対応
- (4) 医療事故調査制度への報告
- (5) 安全な医療の実施状況確認のための院内ラウンド及び教育指導
- (6) 医療安全に係る職員研修の企画、実施
- (7) 診療内容のモニタリング：PE/DVT 発生件数、発生率、転倒転落発生率
- (8) その他医療安全の推進に関すること

2. 危機管理に関する業務

- (1) 患者相談窓口に寄せられる苦情の受付及び対応
- (2) 医療行為に基づく有害事象に対する対応
- (3) 重大事故に対する対応
- (4) 紛争事例に対する対応

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（6件）、及び許可件数（6件）

・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）

・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）

・活動の主な内容：

当該医療技術の提供の申出があった場合、当該申請の内容の確認と適否。実施の確認。技術の適否について決定し、病院長、診療科の長に対し結果を通知。実施 5 例までは、手術記録、診療記録等の提出を求め、記載内容を確認し当該技術について、適正な手続きに基づいて提供されていたか確認。術後の患者が死亡した場合、その他必要な場合にも確認を行っている。実施 5 例を超えた技術については、4 半期ごと症例の提出を求め実施状況の確認を行っている。

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）

・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（30 件）、及び許可件数（28 件）

- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無 ☒ (有) ☐ (無))
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 ☒ (有) ☐ (無))
- ・ 活動の主な内容：
 - (1) 診療科の長から未承認新規医薬品等の使用の申し出があつた場合、当該申し出の内容を確認するとともに、未承認新規医薬品・医療機器等評価委員会（以下「委員会」という。）に対して、当該未承認新規医薬品等の使用の適否及び使用を認める場合の条件などについて意見を求める。
 - (2) 当該未承認新規医薬品等が適正な手続きに基づいて使用されていたか否かについて、診療録等の記載内容及び当該職員の遵守状況を定期的に確認する。また、使用後に患者が死亡した場合、その他必要な場合にも、これらの確認を行う。
 - (3) 委員会が未承認新規医薬品等の使用の適否について決定したとき、又は前項の規定により当該職員の遵守状況を確認したときは、その内容について文書で病院長に報告する。
 - (4) 委員会の意見を踏まえ、未承認新規医薬品等の使用の適否、使用条件等について決定し、当該診療科の長に対してその結果を通知する。
 - (5) 委員会での審査資料及び議事概要並びに当該職員の遵守状況の確認資料を、審査の日又は確認の日から少なくとも5年間保存する。
 - (6) 当該未承認新規医薬品等の継続使用及び中止を病院長に進言することができる。
 - (7) その他未承認新規医薬品等に関する必要な事項について定める。
 - (8) 各責任者が適応外使用医薬品等及び禁忌医薬品等の使用の可否、使用条件等について決定したときは、その決定事項について報告を受けるとともに、当該責任者に対し意見を述べる。
 - (9) 医療機器安全管理責任者が既承認新規医療機器の適正な手続きに基づく使用について確認したときは、その内容について報告を受けるとともに、当該責任者に対し意見を述べる。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 ☒ (有) ☐ (無))
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 ☒ (有) ☐ (無))

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 695 件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であつて、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 266 件
- ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

院内死亡事例の検討

・各診療科医師は、全死亡患者の死亡報告書を記載し、診療部長が内容を確認したものを医療安全管理室に提出。医療安全管理室で医師が全例カルテチェックし、毎週、医療安全管理責任者、医療安全管理室職員、兼務医師と審議している。

アクシデント、合併症事例の検討

・合併症、3b以上のアクシデントについても審議し、審議内容を、その都度管理者に提出している。早期に報告すべき事例があった場合は、速やかに管理者に報告している。審議結果を医療安全対策委員会に報告し、審議が必要な事例は委員会で検討している。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（☒有）（病院名：北里大学病院・大阪国立がんセンター）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（☒有）（病院名：北里大学病院・大阪国立がんセンター）
- ・無）
- ・技術的助言の実施状況

私立大学病院相互ラウンドを上記2病院と実施した。「自己評価票に関する確認事項・質問事項と回答シート」を用い自己評価票に関する確認事項・質問事項のメールでのやり取りを実施した。また訪問により、状況確認を相互に実施し、情報交換をおこなった。

技術的助言

- ・病棟薬配置での定期的定数の見直しで、薬剤師が使用状況を把握し、病棟配置薬が適切に使用されていることの能動的な確認が望ましいとの助言をいただいた。
- ・監査委員会は、医療安全管理業務が適切に実施されているか確認することが求められている。事例の検証が主にならないよう各安全管理者の業務の適正実施について安全管理者から報告を求め、確認してもらうような委員会の開催検討について助言いただいた。
- ・抗がん剤ミキシングに関しての待ち時間短縮に向けて関係部署と調整ができるとよいと助言をいただいた。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況

○患者相談窓口の設置

【部署】 医療安全管理室（患者相談窓口）

【職種】 看護師（兼任）1名、事務6名

【時間】 平日8:30～17:00、土曜8:30～12:30

○相談内容の共有

- 1) 患者相談受理取扱票を作成。所属長および担当者へ通知し、必要に応じて解決策を協議して決定している。
- 2) 対応策上、院内で協議が必要な場合は関係者を招集してカンファレンスを開催している。
- 3) 法律上の検討が必要な事案については顧問弁護士と協議している。
- 4) 紛争等の解決策の内容については、その都度病院長へ報告し決済を受けている。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

別紙参照

2023年度職員研修会開催状況 研修内容と職種別受講数参照

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

2023年度 特定機能病院管理者研修 受講

（2023年11月20日、2023年12月4日、2024年1月15日）

（注）前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

第三者による評価の受審状況

2017年4月7日に病院機能評価認定交付

2022年12月2日病院機能評価認定書交付（認定4回目）

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

なし

・評価を踏まえ講じた措置

なし

(注) 記載時点の状況を記載すること

令和5年度 職員研修会開催状況 研修内容と職種別受講数

1)全職員対象

2024年5月15日現在

回数・内容		開催日時	講師名	対象者	職種内訳				参加人数
					医師	看護師	その他の有資格者	事務員・他	
2023年度 第1回職員 研修	① 院内で発生した過去のインシデント・アクシデントを風化させないため過去3年間の至急回報を振り返る ② 日本医療機能評価機構 提言	SafetyPlusによる配信 配信期間 2023年度7月18日 ～8月31日	医療安全専従医師	全職員 (対象者数 3211) ※配信期間中に、異動・休職・退職者数22人 未受講者数 36人	680	1289	475	709	3,153
2023年度 第1回職員 研修	① 院内で発生した過去のインシデント・アクシデントを風化させないため過去3年間の至急回報を振り返る ② 日本医療機能評価機構 提言	SafetyPlusによる配信 【再】配信期間 2023年度9月4日 ～9月22日	医療安全専従医師	未受講者 (対象人数 36人) ※配信期間内に、異動、休職、退職2者数人 未受講者数 7人	17	4	2	4	27
2023年度 第1回職員 研修 【未受講者 対象】	① 院内で発生した過去のインシデント・アクシデントを風化させないため過去3年間の至急回報を振り返る ② 日本医療機能評価機構 提言	未受講者対象 集合研修 2023年10月4日 16:30～ 2023年10月5日 16:30～ 2023年10月6日 16:30～	医療安全専従医師	未受講者 (対象人数 7人)	7				7
2023年度 第2回職員 研修	転倒転落安全研修 暴言暴力対応	SafetyPlusによる配信 配信期間 2023年度12月4日 ～2024年1月25日	リハビリテーション科医師 外来看護師 医療安全管理室 薬剤師 医療安全管理室 患者相談窓口 看護師	全職員 (対象者 3149) ※配信期間中に、異動・休職・退職者数12人 未受講者数 70人	631	1268	472	696	3,067
2023年度 第2回職員 研修	転倒転落安全研修 暴言暴力対応	SafetyPlusによる配信 【未受講者 対象】 配信期間 2024年度1月29日 ～2024年2月13日	リハビリテーション科医師 外来看護師 医療安全管理室 薬剤師 医療安全管理室 患者相談窓口 看護師	未受講者 (対象者 70) ※配信期間中に、異動・休職・退職者数4人 未受講者数 6人	48	7	0	5	60
2023年度 第2回職員 研修 【未受講者 対象】	転倒転落安全研修 暴言暴力対応	未受講者対象 集合研修 2024年2月26日 16:30～ 2024年2月27日 15:00～ 2024年2月28日 16:30～	リハビリテーション科医師 外来看護師 医療安全管理室 薬剤師 医療安全管理室 患者相談窓口 看護師	未受講者 (対象人数 6人)	6	0	0	0	6

参加者合計 6,320 人

職員一人当たり 2回 / 年

2) 対象者限定研修会

2024年5月15日現在

内容		開催日時	講師名	対象者	職種内訳				参加人数
					医師	看護師	その他有資格者	事務員・他	
新入職オリエンテーション 医療安全研修		2023年4月4日	医療安全管理室 医療安全管理室長(医師)	新入職者 (研修医除く)	58	140	53	14	265
研修医オリエンテーション 医療安全研修		2023年4月4日	4月4日新入職オリエンテーション WEB参加	研修医	43				43
参加者合計					308 人				
新入職オリエンテーション 欠席者対象研修		2023/4/6・10・13・14・20	4月4日新入職オリエンテーション時の録画視聴 医療安全問題集(職員ハンドブック参照)	新入職オリエンテーション欠席者	8				8
参加者合計					8 人				
中途採用者 (4月～3月)		2023年4月～2024年3月	4月4日新入職オリエンテーション時の録画視聴 医療安全問題集(職員ハンドブック参照)	採用者	22	6	14	68	110
復職者、異動者研修 (4月～3月)		2023年4月～2024年3月	感染・医療安全問題集(職員ハンドブック参照)	復職・異動者	132	53	28	18	231
参加者合計					341 人				
KYT研修(基礎編)		2023年7月12日 2023年9月29日 2023年10月4日 2023年10月12日 2023年10月13日 2023年10月16日	医療安全管理室 専従看護師	多職種	0	16	28	0	44
KYT研修(実践編)		2023年10月26日 2024年 1月23日	医療安全管理室 専従看護師	看護師	0	17	0	0	17
参加者合計					61 人				
管理者対象研修	①高難度新規医療技術の導入について ②未承認新規医薬品使用、医薬品適応外、禁忌使用の取り扱いについて ③未承認医療機器および医療機器・医療材料の適応外について ④「医療現場に必要な心理的安全性とは」 PSP認定病院患者安全協会「教育動画」視聴	SafetyPlusによる配信 配信期間 2023年度6月1日～6月30日	医療安全管理室長 医師 医薬品安全管理責任者 薬剤師 医療機器安全管理責任者 医師	(対象人数 275名) 診療部長 所属長 セーフティマネージャー 副師長 医療安全管理室勤務者(兼務者含む)	93	120	29	31	273
参加者合計					273 人				
委託業者対象研修説明会		2023年5月16日	医療安全管理室 専従スタッフ	委託業者 スタッフ				14	14
委託業者研修		DVD視聴	医療安全管理室 専従スタッフ	委託業者 スタッフ				622	622
参加者合計					636 人				
医療安全研修 「アラーム削減に関する取り組みについて」		2023年9月12日	院外講師 医師	多職種	15	34	20	12	81
					40	38	17	10	105
参加者合計					186人				

会場参加

WEB参加

内容	開催日時	講師名	対象者	職種内訳				参加人数
				医師	看護師	その他有資格者	事務員・他	
看護部経年別研修	2023年8月22日 2023年8月28日 2023年9月14日	医療安全管理室 専従看護師	2年目看護師		117			117
	2023年7月5日 2023年7月19日 2023年8月1日	医療安全管理室 専従看護師	3年目看護師		124			124
	2023年10月3日 2023年10月24日 2023年11月17日	医療安全管理室 専従看護師	4年目看護師		96			96
	2023年11月21日 2023年12月19日	医療安全管理室 専従看護師	5年目看護師		70			70
参加者合計								407人

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
- 基準の主な内容 ① 医師免許を有している者（初期臨床研修修了者） ② 医療安全確保のために必要な資質及び能力を有している者 ③ 病院の管理運営に必要な資質及び能力を有している者 - 基準に係る内部規程の公表の有無（☒有・☐無） - 公表の方法 大学病院ホームページにて公表。

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無				☒ 有・ ☐ 無
- 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（☒有・☐無） - 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（☒有・☐無） - 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（☒有・☐無） - 公表の方法 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由、管理者の選考結果、選考過程について大学病院ホームページにて一般公開。				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の間係
別紙 病院長 選考委員会名 簿参照				有・無
				有・無
				有・無
				有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための
合議体の設置及び運営状況

[illegible]

規則第 15 条の 4 第 1 項第 1 号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法
- ・ 規程の主な内容

管理者が、病院の管理・運営に必要な指導力を発揮できる内容。具体的には、病院業務の総括者として、病院の管理運営に必要な人事及び予算の執行権限を有する旨を明記している。

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
副院長（6名）がそれぞれの役割を担い、病院長を補佐し、病院長に事故あるときは予め指名された副院長がその職務を代理し、病院長が欠けたときはその職務を行う。
病院顧問は、本院の業務遂行に関し、管理者に助言することができる。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
「中堅事務職員研修会」、「管理者対象医療安全研修」、「評価者研修会」

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する
監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況					有 ・無
・監査委員会の開催状況：年 3 回 2023 年 6 月 28 日 2023 年 9 月 27 日 2024 年 2 月 14 日 ・活動の主な内容： ・活動の主な内容：医療安全管理業務の執行状況に関する監査 ・監査委員会の業務実施結果の公表の有無 有 ・無 ・委員名簿の公表の有無 有 ・無 ・委員の選定理由の公表の有無 有 ・無 ・監査委員会に係る内部規程の公表の有無 有 ・無 ・公表の方法：聖マリアンナ医科大学病院ホームページにて公表					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 （○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
上原 敏夫	一橋大学名誉教授、山本柴崎法律事務所 弁護士	○	日本を代表する民事訴訟法学者であり、医療事故調査委員会外部委員を務めるなど、医療関係の法務についても深い見識を有している。人格識見は各界においても広く知られているところであり、外部委員としてふさわしい。	有 ・無	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
相馬 孝博	千葉大学医学部附属病院 医療安全管理部 特任教授		心臓外科医の指導医として活躍、国立保健医療科学院政策科学部	有 ・無	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者

			安全科学室長を務め、名古屋大学医学部附属病院医療の質・安全管理部准教授、東京医科大学医療安全管理学講座主任教授を経て現職。 インフェクションコントロールドクター（ICD）、日本医療の質・安全学会理事、日本医療・病院管理学会評議員、日本呼吸器外科学会評議員、横浜市立大学病院外部評価委員会委員長を務める。 感染制御および医療安全管理業務の経験を有する委員として見識を有している。 人格、識見とも優れ、外部委員としてふさわしい。		その他の学識経験を有する者
岡田 綾	順天堂大学再編事業事務局前順天堂医院看護部長		順天堂大学医学部附属練馬病院、順天堂医院で長年に渡り看護部長を務められ、自施設において医療安全対策に積極的に関わっていた。大学病院に求められる実践・教育・研究という役割的視点を持ち合わせており、また人格的にも優れている人物である。外部委員としてふさわしい。	有・無	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
福島 慎吾	認定NPO法人難病のこども支援		脊髄性筋萎縮症という神経難病、	有・無	医療を受ける者その他の医

	全国ネットワーク専務理事		てんかんのある子どもの父親。社会福祉士。入間市障害者福祉審議会会長、神奈川県慢性疾病児童支援協議会委員、千葉県移行期医療支援連絡協議会委員、社会保障審議会専門委員などを努められており、人格、識見とも優れ、外部委員としてふさわしい。		療従事者以外の者
大橋 茂	内部監査室室長		法人の法務・監査室長として会計監査・業務監査に携わり、公平な立場で物事が判断でき、内部委員としてふさわしい。	有・無	その他

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が
法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

・ 専門部署の設置の有無 (☒ 有 ☐ 無)

・ 内部規程の整備の有無 (☒ 有 ☐ 無)

・ 内部規程の公表の有無 (☐ 有 ☒ 無)

・ 公表の方法

則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号ロに掲げる開設者による
業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 病院に係る経営月次報告や組織改編、主要人事異動など日常業務に関する意思決定は「常任役員会」が、予算や決算など法人全体に及ぶ重要課題の意思決定は「理事会」がそれぞれ担っており、いずれの会議体にも病院長は正規構成員として出席している。開設者（理事長）をはじめとする他の構成員は、各課題について病院長が行う説明を通じて病院の管理運営状況について把握をし、運営が適切になされているか監督している。 ・ 会議体の実施状況（理事会年5回、常任役員会年15回）※2023年度実績 ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（有・無）（20回（全ての会）） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（有・無）※但し学内者のみ ・ 公表の方法 学内イントラネットや学内発行誌（学報）			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：理事会、常任役員会			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
理事会として運用を行っているため			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

（注） 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に
疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況

- ・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（☒ 有・無）
- ・ 通報件数（年 1 件）
- ・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（☒ 有・無）
- ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（☒ 有・無）
- ・ 周知の方法
医療安全マニュアル（携帯版）
学内ホームページに掲載を行っている。

聖マリアンナ医科大学病院 病院長選考委員名簿

氏 名	所 属	職 名	選 定 理 由	経 歴
(委員長) 三 宅 良 彦	聖マリアンナ医科大学	理事	大学病院長選考委員会規程 第3条1号に基づき聖マリアンナ医科大学理事として、大学病院に係る常務を主幹する。	1972 年 東京慈恵会医科大学医学部医学科卒業 1975 年 聖マリアンナ医科大学第二内科学助手 1983 年 医学博士(聖マリアンナ医科大学) 1987 年 聖マリアンナ医科大学 第二内科学助教授 2001 年 同 大学 内科学 (循環器内科) 教授 2008 年 同 大学 医学部附属病院病院長 2011 年 同 大学 学長 2017 年 同 大学 名誉教授・学校法人聖マリアンナ医科大学副理事長
近 藤 浩 志	聖マリアンナ医科大学	理事	大学病院長選考委員会規程 第3条1号に基づき聖マリアンナ医科大学理事として、病院運営および組織管理への識見と経験を有する。	1988 年 中央大学経済学部産業経済学科卒業 1988 年 富士銀行 (築地支店) 入行 1994 年 富士銀行 (広報部広告宣伝係) 調査役 1995 年 富士銀行 (本店営業第一部) 課長 1999 年 富士銀行 (個人開発部プロダクト企画・開発係) 調査役 2003 年 みずほ銀行 (個人商品開発部ローンチーム) 参事役 2004 年 みずほ銀行 (新橋支店) 副支店長 2008 年 みずほ銀行 (個人業務部付) 佛クレディセゾン出向 みずほ提供推進部長 2011 年 みずほ銀行 (雷門支店) 支店長 2013 年 みずほ証券 (連携営業推進部) 営業部長 2014 年 みずほ証券 (職域営業部) 部長 2016 年 みずほ証券 (ライフプラン営業部) 部長 2019 年 みずほ銀行 (向ヶ丘支店付) 本学出向 財務部参事 2020 年 聖マリアンナ医科大学 常勤理事
(副委員長) 加 藤 智 啓	聖マリアンナ医科大学	医学部長	大学病院長選考委員会規程 第3条2号に基づき医学部長として、医師の立場から、豊富な経験を有しており、医療及び医学に関し識見を有しているため。	1986 年 東京大学医学部卒業 1988 年 東京大学医学部 物理療法内科学教室医員 1991 年 聖マリアンナ医科大学 難病治療研究センター助手 1995 年 医学博士(東京大学) 1996 年 聖マリアンナ医科大学 内科・臨床検査医学 講師 1998 年 米国アラバマ州立大医学部 客員研究員 1999 年 聖マリアンナ医科大学 難病治療研究センター 助教授 2007 年 同 大学 生化学主任教授 同 大学 大学院 疾患プロテオーム・分子病態治療学 教授 2011 年 同 大学院 医学研究科長 2014 年 同 大学 医学部長
遊 道 和 雄	聖マリアンナ医科大学	研究科長	大学病院長選考委員会規程 第3条3号に基づき研究科長として、医師の立場から、豊富な経験を有しており、医療及び医学に関し識見を有しているため。	1985 年 鹿児島大学医学部卒業 1985 年 富山医科薬科大学附属病院整形外科研修医 1990 年 高岡市民病院整形外科 1994 年 医学博士(富山医科薬科大学) 1995 年 米国スタンフォード大学放射線腫瘍学教室留学 1996 年 富山医科薬科大学医学部整形外科助手 2000 年 英国グラスゴー大学リウマチセンター留学 2003 年 聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター講師 2007 年 同大学 難病治療研究センター准教授 2010 年 同大学 大学院 難治性疾患病態制御学教授 2011 年 同大学 難病治療研究センター長 2020 年 同大学 大学院 医学研究科長
峯 下 昌 道	聖マリアンナ医科大学	副院長	大学病院長選考委員会規程 第3条4号に基づき大学病院副院長として、医師の立場から、豊富な経験を有しており、医療及び医学に関し識見を有しているため。	1986 年 防衛医科大学校 卒業 1988 年 陸上自衛隊海田市駐屯地医務室医官 1997 年 医学博士 (広島大学) 1997 年 国家公務員共済組合連合会三宿病院内科医師 (兼自衛隊中央病院医官) 1999 年 防衛庁陸上自衛隊幕僚監部衛生部医務班医療管理係長 2001 年 自衛隊福岡病院外来診療科部長 2003 年 自衛隊熊本病院内科部長兼兼任診療科部長 2006 年 聖マリアンナ医科大学 内科学 (呼吸器・感染症内科) 講師 2008 年 同 大学 内科学 (呼吸器・感染症内科) 准教授 2015 年 同 大学 内科学 (呼吸器内科) 教授 2017 年 同 大学附属大学病院 副院長
本 館 教 子	聖マリアンナ医科大学病院	看護部長	大学病院長選考委員会規程 第3条5号に基づき大学病院看護部長として、看護師の立場から、豊富な経験を有しており、医療及び医学に関し識見を有しているため。	1981 年 信州大学医療技術短期大学部卒業 1981 年 財団法人 三友堂病院 1985 年 看護教員養成課程 修了 1985 年 財団法人 三友堂病院看護専門学校 1999 年 聖マリアンナ医科大学病院 2003 年 同 病院 主任看護師 2005 年 同 病院 看護部長 2014 年 同 病院 看護副部長 2014 年 同 病院 看護部長 2016 年 認定看護管理者取得 2020 年 看護統括担当執行役員
二 川 一 男	元厚生労働省事務次官	外部有識者	大学病院長選考委員会規程 第3条6号の学外の有識者として、元厚生労働省事務次官の経験から、医療行政を把握しているとともに、医療・保健・福祉全般に関する豊富な知見を有しているため。	1980 年 東京大学法学部卒業 1980 年 旧厚生省入省 2012 年 厚生労働省官房長 2014 年 厚生労働省医政局長 2015 年 厚生労働省事務次官 2017 年 退官 2020 年 東レ株式会社 社外取締役
小 山 信 彌	東邦大学	外部有識者	大学病院長選考委員会規程 第3条6号の学外の有識者として、東邦大学名誉教授として医師の立場から、豊富な経験を有しており、医療及び医学に関し識見を有しているため。	1972 年 東邦大学医学部卒業 1991 年 同 大学 心臓血管外科学講座 助教授 1995 年 同 大学 心臓血管外科学講座 教授 2000 年 東邦大学医学部付属大森病院 院長 2012 年 東邦大学医学部 特任教授、名誉教授 2021 年 日本私立医科大学協会 参与

聖マリアンナ医科大学病院 監査委員会名簿

医療安全管理業務の執行状況を監査するために、委員長及び委員の過半数が当院と利害関係のない監査委員会を設置いたしました。
(医療法施行規則第15条の4第1項第2号に基づく委員会) (2023年4月1日)

開設者(理事長) 明石 勝也

氏名	所属・役職	委員	選定理由	利害関係	委員の要件
上原 敏夫	一橋大学名誉教授、 山本柴崎法律事務所 弁護士	委員長 (外部委員) 再任	一橋大学教授、九州大学・北海道大学等多数の大学の講師及び 司法研究所講師等の教職、日本民事訴訟法学会、日本私法学会 及び仲裁ADR学会等の理事、法制審議会幹事・臨時委員、下級 裁判所裁判官指名諮問委員会委員、最高裁判所民事規則諮問委 員会委員及び司法試験考査委員等の法律立案・法曹養成等の公 職、学校法人藤村学園副理事長を歴任し、さらに長年にわたってカ ンボディア王国及び中華人民共和国の法整備の支援に尽力され、 日本を代表する民事訴訟法学者である。 また、平成21年には本院の医療事故調査委員会外部委員を務め たほか、医療事故を代表する判例の解説(「ルンパール事件」)民事 訴訟法判例百選第4版)を著すなど、医療関係の法務についても深 い見識を有している。人格識見は各界においても広く知られてい るところであり、外部委員としてふさわしい。	無	医療に係る安全管理 又は法律に関する識 見を有する者その他の 学識経験を有する者
相馬 孝博	千葉大学医学部附属病院 医療安全管理部 特任教授	委員 (外部委員) 再任	心臓外科医の指導医して活躍、国立保健医療科学院政策科学部 安全科学室長を務め、名古屋大学医学部附属病院医療の質・安全 管理部准教授、東京医科大学医療安全管理学講座主任教授を経て現職。 インфекションコントロールドクター(ICD)、日本医療の質・安全学 会理事、日本医療・病院管理学会評議員、日本呼吸器外科学会評 議員、横浜市立大学病院外部評価委員会委員長を務める。 感染制御および医療安全管理業務の経験を有する委員として見識 を有している。人格、識見とも優れ、外部委員としてふさわしい。	無	医療に係る安全管理 又は法律に関する識 見を有する者その他の 学識経験を有する者
岡田 綾	順天堂大学再編事業事務 局 前順天堂医院看護部長	委員 (外部委員) 新任	順天堂大学医学部附属練馬病院、順天堂医院で長年に渡り看護 部長を務められ、自施設において医療安全対策に積極的に関わっ ていた。大学病院に求められる実践・教育・研究という役割的視点 を持ち合わせており、また人格的にも優れている人物である。外部 委員としてふさわしい。	無	医療に係る安全管理 又は法律に関する識 見を有する者その他の 学識経験を有する者
福島 慎吾	認定NPO法人 難病のこども支援 全国ネットワーク会専務理事	委員 (外部委員) 新任	脊髄性筋萎縮症という神経難病、てんかんのある子どもの父親。社 会福祉士。入間市障害者福祉審議会会長、神奈川県慢性疾病児 童支援協議会委員、千葉県移行期医療支援連絡協議会委員、社 会保障審議会専門委員などを努められており、人格、識見とも優 れ、外部委員としてふさわしい。	無	医療を受ける者その 他の医療従事者以外の 者
大橋 茂	内部監査室 室長	委員 (内部委員) 新任	法人の内部監査室長として会計監査・業務監査に携わり、公平な 立場で物事が判断でき、内部委員としてふさわしい。	有	その他

2024年度 管理運営会議 出席者					2024/10/1
組織図上の役職等		氏 名	出欠印	代理出席者	連絡先
病 院 長 ・ 副 院 長	病院長	オオツボ 大坪 タケヒト 毅人			8-0938
	副院長 呼吸器内科部長 【感染対策、地域連携、Total Quality Management】 Total Quality Management室長、夜間救急センター副センター長、 呼吸器病センター長、メディカルサポートセンター長	ミネシタ 峯下 マサミチ 昌道			8-0463
	副院長 救急科部長 【労働安全衛生、高度救命導入、高度先進医療、ICU管理】 救命救急センター長、集中治療センター長、看護師特定行為研修センター長	フジタニ 藤谷 シゲキ 茂樹			8-1080
	副院長 小児科部長 【診療情報・診療記録管理、診療報酬、保育園】 救命救急センター副センター長、こどもセンター長、こどものこころセンター副センター長 てんかんセンター長、リウマチ・膠原病生涯治療センター副センター長、診療記録管理室長	シミズ 清水 ナオキ 直樹			8-0912
	副院長、婦人科部長 【臨床倫理、医療器材、薬事】 生殖医療センター長、腫瘍センター副センター長	スズキ 鈴木 ナオ 直			8-0873
	副院長 循環器内科部長 【医療安全、防災、IT化推進】 救命救急センター副センター長	アカシ 明石 ヨシヒロ 嘉浩			8-0108
	副院長 看護部長 【看護・病床管理担当】	モトダテ 本館 ノリコ 教子			8-0608
診 療 部 門	総合診療内科部長	オオヒラ 大平 ヨシユキ 善之			8-0043
	消化器内科部長 神経内分泌腫瘍センター長	タテイシ 立石 ケイスケ 敬介			8-0069
	腎臓・高血圧内科部長	シバガキ 柴垣 ユウゴ 有吾			8-0047
	代謝・内分泌内科部長 内分泌疾患センター長、糖尿病センター長、神経内分泌腫瘍センター副センター長	ソネ 曽根 マサカツ 正勝			8-0095
	脳神経内科部長 脳卒中センター副センター長、パーキンソン病治療センター副センター長 ゲノム医療推進センター長、てんかんセンター副センター長	ヤマノ 山野 ヨシヒサ 嘉久			8-0058
	血液内科部長 輸血部長	アライ 新井 アヤコ 文子			8-0278
	リウマチ・膠原病・アレルギー内科部長 人工関節センター副センター長 リウマチ・膠原病生涯治療センター長	カワハタ 川畑 キミト 仁人			8-0308
	腫瘍内科部長 腫瘍センター長、ゲノム医療推進センター副センター長、がんゲノム診療部副部長	スナカワ 砂川 ユウ 優			8-0481
	神経精神科部長 てんかんセンター副センター長	コチャ 古茶 ヒロキ 大樹			8-2029
	新生児科部長 総合周産期母子医療センター長	ホクトウ 北東 イサム 功			8-1674
	小児集中治療科 集中治療センター副センター長、こどもセンター副センター長	カワガチ 川口 アツシ 敦			8-1276
	消化器・一般外科部長 手術・IVRセンター長	ミカミ 民上 シンヤ 真也			8-1430
	心臓血管外科部長 移植医療支援室長	ナワタ 縄田 カン 寛			8-0283
	呼吸器外科部長 呼吸器病センター副センター長	サジ 佐治 ヒサシ 久			8-0523
	小児外科部長 総合周産期母子医療センター副センター長、こどもセンター副センター長 臨床研修センター長、看護師特定行為研修センター副センター長	フルタ 古田 シゲユキ 繁行			8-0331
	乳腺・内分泌外科部長 腫瘍センター副センター長、遺伝診療部副部長	ツ ガワ 津川 コウイチロウ 浩一郎			8-1419
	脳神経外科部長 脳卒中センター副センター長	ムラタ 村田 ヒデトシ 英俊			8-1571
	整形外科部長 人工関節センター長、リウマチ・膠原病生涯治療センター副センター長	ニキ 仁木 ヒサテル 久照			8-1012
	形成外科部長	カジカワ 梶川 アキヨシ 明義			8-1299

2024年度 管理運営会議 出席者						2024/10/1
診療部門	皮膚科部長	カドノ 門野	タカフミ 岳史			8-1780
	腎泌尿器外科部長	キクチ 菊地	エイジ 栄次			8-0532
	産科部長 生殖医療センター副センター長	タカエ 高江	セイドウ 正道			8-0759
	眼科部長	キタオカ 北岡	ヤスシ 康史			8-0887
	耳鼻咽喉・頭頸部外科部長	コモリ 小森	マナブ 学			8-1128
	放射線診断・IVR科部長 画像センター長	ミムラ 三村	ヒデフミ 秀文			8-1815
	放射線治療科部長 放射線治療センター長	ナカムラ 中村	ナオキ 直樹			8-1102
	麻酔科部長 手術・IVRセンター副センター長、脊椎センター副センター長	イノウエ 井上	ソウイチロウ 莊一郎			8-0211
	病理診断科部長	コイケ 小池	ジュンキ 淳樹			8-0917
	リハビリテーション科部長 リハビリテーションセンター長、脊椎センター副センター長 人工関節センター副センター長	ササキ 佐々木	ノブユキ 信幸			8-1164
	緩和ケア科部長 緩和ケアセンター長	ハングチ 橋口	さおり			8-1778
病院長直轄	医療安全管理室長 消化器・肝臓内科副部長、内視鏡センター長	ヤスダ 安田	ヒロシ 宏			8-0963
	医療安全管理室主幹	フクザワ 福澤	トモコ 知子			8-1502
	医療安全管理室次長	キタハラ 北原	ケイコ 圭子			8-1790
	感染制御部長 感染症センター副センター長	タケムラ 竹村	ヒロム 弘			8-0067
診療協働部門	病院事務統括担当執行役員兼事務部部长 診療記録管理室副室長	アンドウ 安藤	あゆ			6431 8-1715
	事務部次長兼管理課課長	クサナギ 草薨	タクヤ 拓也			8-1441
	事務部参事兼医事課課長	オノセ 小野瀬	ヤスオ 康夫			8-1912
	薬剤部長 治験管理室副室長	サカウエ 坂上	イッコウ 逸孝			8-1555
	栄養部長	シメズ 清水	トモコ 朋子			8-0706
	臨床工学技術部技師長	オオカワ 大川	オサム 修			8-0588
	リハビリテーション技術部技師長	ワタナベ 渡辺	サトシ 敏			8-0677
	臨床検査技術部技師長 臨床検査センター副センター長	ヤマザキ 山崎	サトシ 哲			8-0077
	臨床検査技術部参事（輸血部）	イノ 井野	ちさと			6245
	診療放射線技術部技師長	モリ 森	ジュイチ 寿一			8-0353
	超音波診療技術部技師長	オカムラ 岡村	タカノリ 隆徳			5231・6224
	臨床病理診断技術部技師長	オオカワ 大川	チエ 千絵			8-1706
	ソーシャルワーク技術部技師長	ミヤカワ 宮川	ケイコ 恵子			8-0682
診療施設部門	夜間急患センター長 救急科副部長、集中治療センター副センター長、心不全センター副センター長	ヨシダ 吉田	トオル 徹			8-0929
	健康診断センター長	ハラ 原	マサトシ 正壽			8-0203
	精神療法・ストレスケアセンター長	ナカガワ 中川	アツオ 敦夫			8-0072
	腎臓病センター長 腎臓・高血圧内科副部長	サクラダ 櫻田	ツトム 勉			8-0834
	超音波センター長	イズモ 出雲	マサキ 昌樹			8-1325
	輸血部長 細胞治療センター副センター長	オオシマ 大島	クミ 久美			8-0256
	中央器材室室長 麻酔科副部長 手術・IVRセンター副センター長	サカモト 坂本	ミキ 三樹			8-1166
	認知症（老年精神疾患）治療研究センター長	カサヌキ 笠貫	コウジ 浩史			8-1133
	統合失調症治療センター長 精神療法・ストレスケアセンター副センター長、こどものこころセンター副センター長	アンドウ 安藤	クミコ 久美子			8-0328

2024年度 管理運営会議 出席者

2024/10/1

診療連携部門	ハートセンター長	ハラダ 原田	トモオ 智雄			8-1575
	心不全センター長 手術・IVRセンター副センター長、集中治療センター副センター長	イシハシ 石橋	ユウキ 祐記			8-0136
	ハイブリッド心臓大動脈治療センター長	ニシマキ 西巻	ヒロシ 博			8-1028
	心臓血管外科副部長					
	脳卒中センター長	アキヤマ 秋山	ヒサナオ 久尚			8-1094
	脳神経内科副部長					
	パーキンソン病治療センター長	シライシ 白石	マコト 真			8-0618
	メディカルサポートセンター副センター長					
	肝疾患医療センター長	ワタナベ 渡邊	ツナマサ 綱正			8-1810
	臨床検査センター副センター長					
	脊椎センター長	アカザワ 赤澤	ツトム 努			8-0288
	整形外科副部長、骨粗鬆症センター長					
	こどものこころセンター長	オノ 小野	カズヤ 和哉			8-0442
	こどもセンター副センター長					
	遺伝診療部長	ミギタ 右田	オオスケ 王介			8-1898
	臨床検査センター長					
	感染症センター長	クニシマ 國島	ヒロユキ 広之			8-0271
	感染制御部副部長					
	胆道・膵臓病センター長	コバヤシ 小林	シンジロウ 慎二郎			8-0167
	神経内分泌腫瘍センター副センター長					
	細胞治療センター長	サノ 佐野	フミアキ 文明			8-0145
	脳血管治療科部長	ウエダ 植田	トシヒロ 敏浩			8-1486
	脳神経外科副部長					
	在宅移行医療支援センター てんかんセンター副センター長	ミヤモト 宮本	ユウサク 雄策			8-0111
医療支援管理部門	メディカルサポートセンター課長	トミタ 富田	トモヒロ 智博			8-0747
	メディカルサポートセンター参事	タキグチ 滝口	ミエ 美重			8-1882
	放射線管理室長	マエハラ 前原	ヨシアキ 善昭			8-1648
	診療記録管理室係長	タカダ 高田	エツコ 悦子			6456
	治験管理室長	マツモト 松本	ナオキ 直樹			8-0104
	治験管理室課長	ミヤザキ 宮崎	カンナ			8-1004
その他・事務部門	企画・知財・IT戦略担当理事	ヤマモト 山本	シンジ 真士			8-0019
	病院経営戦略担当理事	カワセ 川瀬	ヒロカズ 弘一			8-0204
	病院経営戦略室主任	ワダ 和田	ショウヘイ 祥平			3171
	総務部参事兼総務課課長	オクシマ 奥島	ヒデアキ 英明			3182
	人事部部長	ハセガワ 長谷川	オサム 修			8-9035
	財務部参事兼財務課課長	ムラタ 村田	タケシ 武司			5862
	施設部参事兼施設環境課課長	キタバヤシ 北林	マサヒコ 正彦			8-1775
	調達部参事	ハンザワ 半澤	ヒロノブ 宏宣			8-9993
	I T 戦略推進室室長 情報部門担当執行役員	シモヒラ 下平	ヒデフミ 秀文			8-0016
	臨床研修センター課長	ササキ 佐々木	トオル 亨			3920
	看護師特定行為研修センター副センター長	タカノ 鷹野	イクヨ 郁与			80525